

関西学院大学総合政策学部

2017年度 春学期

日本語Ⅲ レポート集

私の研究テーマ

目次

1 クラス（担当：牲川 波都季）

地域住民としての留学生	オウ カイゼン 王 淮然	6
故郷の大気汚染の問題を解決するために	オウ シュウメイ 王 秀梅	11
観光と私	クオン ヒョンチョル 権 炫喆	15
誰が親を世話するのか？——中国と日本の比較	チョウ ケイ 張 敬	18
中国の環境教育	チョウ 張 テツキン	22
日本ではモバイル決済サービスの普及	ヨウ リン キ 雍 林希	26
AIにつながるビッグデータ	リ ジョウ ウ 李 拯宇	31

2 クラス（担当：勝部 三奈子）

コーヒーと日本人	ゴ セイコウ 呉 正好	36
大学で研究したいこと	シャオ イーファン 邵 一帆	39
中国の都市部と農村部の貧富格差について	ジョウカン キンキン 上官 欣欣	43
大学で研究したいこと	チョウ ハクガン 趙 伯岩	46
まちづくりによる過疎地域活性化	ヨウ シンビン 楊 晨敏	49
日本人同士の間にかかる差別	ロマーノ・ミルコ	52

3 クラス（担当：横野 さゆる）

国際貿易の研究について	ウ シケン 于 子軒	56
大学で研究したいこと	オウ スイ 王 帥	60
スポーツエンターテイメント——fixed gear bike の経営	ヨウ ホ ジン 高 豪振	64
水質汚染と人間の健康	スウ ウテイ	69
中国都市のゴーストタウン問題を解決する——人工知能はどう加える？	ブン ソウテイ 文 双定	74
経済を目指して	リク シンコン 陸 シンコン	78

1 クラス

担当 牲川 波都季

地域住民としての留学生

王淮然

感想文

近年、日本で留学している外国留学生数がだんだん増えている。文部科学省の「外国人留学生在籍状況調査」によると、平成28年5月1日現在の外国人留学生は239,287人であり、対前年比15%増えた事実が分かった。その中で、中国、ベトナム、韓国からの留学生合わせた人数が、すでに全員の7割を占める。自分も留学生として、日本語でコミュニケーションチャンスが学内とアルバイト先にしかない、また一人暮らしで周りの人たちに話し合ったことがない。どのような交流チャンスを求めるのかというより、自分は孤独感がする。留学生友達との交流がいっぱいあるけど、日本人友達との交流は少なく、特に住んでいる近所との付き合いがほとんどないので、地元の主人意識もなくなったと思っている。ある程度に、自分が本当に日本の社会に融合するかどうか、孤独感があるかどうかということをよく悩んでいる。だから、このような外国人快速増加状態になってきて、日本社会から外国人留学生はどのように受け入れるのか、そして、外国留学生の角度からどのように日本社会に融合するのかを考えようと思う。

私は留学生が日本社会に融合する必要性について、二つの方面から考えた。まずは交流の欠失問題だと考える。言語能力による留学生が社会での発展に制限され、よく話し合い対象がいなくて解消しないと生活的な不満などマイナス情緒が生み出しやすい。そして、文化差異のショックは留学生心理への影響がよく無視される。長い時間で最初の異文化に対する新鮮な感覚がだんだん減少しつつ、異文化の移入と内在の母国文化とのショックからの影響は増加していくので、内在の文化適応性と外界の支援が不可欠だと考える。

わたし大学で研究したいテーマは外国留学生と日本社会を融合するために、日本の地元地域コミュニティの重要性である。地域活性化発展にとっては、留学生の視点から新たな町や地域の魅力を発見し、最終的に地域内外そして広く国内外に発信することも目標としているので、外国人の参加が不可欠である。外国人にとっては、日本語のコミュニケーション能力も高めたり、「生活者としての外国人」の教育も体験できたり、異国に住んでも帰属感を生かすという気持ちが重要だ。つまり、外国留学生が地域の一員として、地域のコミュニティをどのように活用するのかに関する問題を深く考えなければならない。だから、私は今勉強している街づくり・都市計画からの観点を運用し、対策しようと思っている。特に留学生を中心に、留学生が大学で学ぶ専門的な知識や技術を社会活動に関わって深く学ぶ、今まで学んだ日本語を社会に実用する方面も踏まえ、対応の活動支援対策を考える。

地域コミュニティとは、地域住民が生活している場所、すなわち消費、生産などに関わり合いながら、住民相互の交流が行なわれている地域社会、あるいはそのような住民団体の集団を指す。私はこのレポートで地域コミュニティから行なわれたイベントを中心として留学生の交流機会についてを論じる。

3 6) V地域における受入れ ①地域留学生交流推進会議

0) 目的
留学生交流を通じた真の国際相互理解を促進するためには、官民一体となった留学生受入れ体制を整備し、革の粗レベルでの留学生受入れのための活動を推進していく必要があることから、地域の大学を中心に「地域留学生交流推進会議」を設置し、構成員相互の連絡調整、意見交換、情報交換等を実施している

0) 創設 昭和61年 8/20予算 31, 204千円、H20年度限り

0) 設置地域 46地域

0) 会議の構成団体(員)
大学等 当該地域の国公立大学(長等)、地方公共団体 県知事、市長等)、経済団体 商工会議所、経営者協会等)、ボランティア団体等 (ロータリークラブ、ライオンズクラブ等)、学識経験者

0) 主な活動内容
① 地域住民等との各種交流事業の促進
大学と各種団体との連携による各種交流事業の促進、e-mailサイト(ホームページ)の拡大
② 留学生のための宿舎の確保
大学等における宿舎の増設、建設、地方公共団体における宿舎建設、公的住宅の提供、民間団体の宿舎建設の促進等
③ 留学生に対する奨学金の拡大
大学における奨学金基金、地方公共団体における奨学金の支給拡大等
④ その他
広報資料の発行、留学生の生活実態に関する調査等

○平成21年度 地域留学生交流推進会議総会の開催一覧

No	県名	大学名	開催予定日	開催場所
1	栃木県	宇都宮	9/23日	宇都宮大学行真院書館会議室
2	福岡県	九州	9/23日	九州大学通商ホール
3	香川県	高松	9/23日	高松大学行真院書館3階視聴室
4	鹿児島県	鹿児島	7/8日	鹿児島大学学生会館
5	福井県	福井	7/10日	福井大学国際交流センター
6	岩手県	岩手	7/22日	岩手大学
7	静岡県	静岡	7/28日	静岡県立国際交流センター
8	佐賀県	佐賀	9/4日	佐賀大学学生会館多目的ホール
9	大分県	大分	9/15日	大分大学経済学部1会議室
10	東京都	慶応	10/23日	慶応大本館
11	埼玉県	埼玉	10/1日	さいたま市内
12	徳島県	徳島	10/1日	徳島市内
13	宮城県	宮城	11/4日	仙台市内
14	福井県	福井	11/11日	福井大学アカデミーホール
15	茨城県	茨城	11/17日	茨城大学
16	沖縄県	沖縄	11/18日	ホテル日航国際グランドキャッスル
17	奈良県	奈良女子	11/19日	奈良女子大学生生活協賛学舎会議室
18	長崎県	長崎	11/25日	長崎大学事務局会議室
19	山口県	山口	11/25日	山口大学事務局
20	東京都	弘前	11/27日	弘前大学
21	北海道	北海道	12/3日	北海道大学学術交流会議室
22	新潟県	新潟	12/14日	新潟大学学術交流センター
23	石川県	金沢	12/16日	金沢大学自然科学系図書棟
24	長野県	信州	12/18日	信州大学学術交流センター
25	岐阜県	岐阜	12/22日	岐阜大学本部棟4階大会議室
26	静岡県	静岡	12/21日	静岡県立大学本部棟大会議室
27	香川県	香川	12/21日	香川大学内
28	秋田県	秋田	12/21日	秋田市内
29	福井県	福井	1/18日	福井市内
30	岡山県	岡山	1/21日	岡山大学
31	福島県	福島	1/25日	福島市内
32	新潟県	新潟	1/25日	新潟大学学術交流センター
33	山梨県	山梨	2/1日	山梨大学学術交流センター
34	東京都	慶応	2/1日	慶応大本館
35	東京都	慶応	2/1日	慶応大本館
36	山形県	山形	2/1日	山形大学
37	茨城県	茨城	2/24日	茨城大学国際交流センター
38	高知県	高知	2/24日	高知大学
39	長野県	長野	2/24日	長野大学国際交流センター
40	大分県	大分	2/24日	大分大学国際交流センター
41	和歌山県	和歌山	2/24日	和歌山大学事務局3階会議室
42	岡山県	岡山	2/24日	岡山大学本部棟第一会議室
43	神奈川県	横浜国立	2/24日	横浜国立大学教育文化ホール
44	京都府	京都	2/24日	京都大学国際交流センター

48

図表から見ると、日本文部科学省からの地域における受け入れに関する、全国46地域に地域留学生交流推進会議が設置され、資源の豊かさ方面から考えると、留学生にとっては生活的に、経済的に、各方面から保障され、政策的に留学生は地域発展において重要性がわかった。

今の各地域自治体が様々な外国人の向けイベントを行っている。主に地域福祉、国際協力、就職活動指導、国際交流にかかわる事業を中心とした、外国留学生だけではなく、地元の外国人全員も巻き込んで日本の社会に融合し、国際交流に貢献という目標にしている。

だが、留学生らがイベントに参加する積極性がたりない現状がある。その原因は四つがあると考えている。一つ目、時間がないというより、便利がない方が原因だと思う。学業との両立に悩む学生の実

数は少ないが、その背後には課外活動への参加を猶予したり、そして活動から足が遠いいたりといったことが多数だ。二つ目、金銭の負担がある。実際に今の地域コミュニティから行った活動料金は非常に安い、ある程度に留学にとっては負担とは言えないわけではない。三つ目、自分に合う活動がない。今地域コミュニティから行った活動の主題が固まって、日本文化の接触と就職支援など以外の新しい活動がほしいといわれた留学生が多い。活動を行う目的が留学生と地元の人と交流のチャンスを与え、地元の人と結びつける懸け橋であるので、ユニークのイベント主題の考えが必要だ。四つ目、留学生によって、性格の違いがあるので、外向と内向性格の人によっては地域コミュニティから行ったイベントに関心度が全く違う。性格を問わず、留学生らの参加積極性を引き出しの考えが重要だ。

だから、留学生のイベント参加意欲問題として、個人的な考えを転換するより、イベントの内容と参加しやすさなど方面の方が解決しやすいと考える。留学生に本番の地域住民として特有の帰属感を与えるのは一番重要だ。そして、留学生にとって、勇敢に日本の社会に触れ合い、融合するのは一番重要だ。

話し合う相手について

関西学院大学総合政策学部都市政策学科三回生の先輩に話したいと考える。先輩が街づくりや都市計画に関する問題を詳しく紹介してくれることができるので、私にとっても都市政策にももっと深く理解できると思う。主に地域コミュニティの役割、運営方式と手段に関する知識を聞き、地域活性化からの視点と留学生の社会融合問題と合わせて考えようと思う。

話し合い結果

私と話し合ったのは関西学院大学総合政策三年生の先輩余舒敏さんである。六月二日の午後に WeChat で今度の研究テーマについて 40 分ぐらいの程度で話し合った。

余さんの去年の研究テーマは廃棄された建築のリサイクル及びコミュニティとの関係であり、私の研究したいテーマとも地域問題に関して、余さんともまちづくりと都市計画からの視点から分析したのである。

「今高齢化問題が厳しい社会では、大都市以外の地域が活性はなくなるがちで、発展も緩慢になる傾向を避けないのは事実なので、地域活性化のため、地域コミュニティが不可欠である。コミュニティが高頻度で開催できれば、市民のストレスにも減少でき、仕事効率も上がり、地域の幸福指数も上がると

予想できる」。まず、余さんがコミュニティの重要性がそう言った。私は余さんの意見にもとづく、留学生と地域コミュニティとの関係も考えていた。前文に書いた通りに、留学生にとっては地元の帰属感が重要な役割を發揮すべきであると考え。ここ言った帰属感とは、コミュニティを活用する上で、有効情報をすぐに手に入り、まちづくりに自分の力を入ると考える。

その後、私は留学生としてどうして地域コミュニティから行ったイベントに参加しないのが、地域コミュニティがどのように解決したほうがいいのかについて自分の考えを述べて、余さんの意見を聞いた。留学生の参加意欲問題に対して、コミュニティがやはり留学生側の角度から考えないと、なかなか現状を解決できないわけだと余さんとも私とも考えている。余さんが私の考えに賛成した上で、解決例も出してくれた。例えば、留学生にとってイベントの参加に対する意欲が低下していることが現状なので、外国人の留学生に対して母国なりの料理を作って、異国でも故郷のような雰囲気を感じることができると、更に異文化間のコミュニケーションが和めるような新たなイベントを開催することが指摘した。そして、留学生の経済条件などの要素も考えるべき、主に大変な参加費用がかかるという問題について、近くのただに参加できる場所で定期的にフリーマーケットを開催され、無料参加し、手頃な価格で好きなものが購入できる一方、要らないものも売れるという形式の活動を行われ、こう言ったアドバイスを出してくれた。

わたしはこのようなアドバイスが賛成と考えるが、実際に前に書いた例のようにイベントを行う実現可能性はどのくらいあるのかに興味がある。余さんに聞いて、まずは経済的な問題があると言われた。イベント開催の必要経費として、地域コミュニティにとっては、各会社などからの支援をもらわないと単に提供するは無理だ。確かにこの方面について国家の政策があるが、しかし、まだ予算がまったく足りない場合もある。それで、大学も地域コミュニティと提携すれば、大学の社会参加度と国際視野が昇進できるかなとわたしとも余さんとも考えた。

おわりに

留学生数が続けざまに増えてきた日本の発展状態において、地域がこの機会を把握すべき、地域活性化と国際交流度を進めなければならない。それで、留学生の地域帰属感の培養が重要になると考えている。一方、留学生が自分自身は地元の人として受け入れられるか、地域発展に貢献できるかのような疑問を持つ。それで、留学生の生活を重視する上で、心理的な問題を注意するのは不可欠だと考える。地域コミュニティと留学生の関係が両方面考えないと、うまく発展できないわけだ。これからも自分がまちづくりに関する専門知識を勉強して、この問題を解決するために自分の力を入りたいと思う。

感想

春学期でこの大学で研究したいテーマのレポートを何度も先生とクラスメイトと交流する上で、直された。この過程で、まずはコミュニケーション能力を養う感じがする。自分の考えが固まった部分に新たなアイデアをもらって、色々勉強になった。そして、自分が大学で勉強の目標が明確にして、どのように勉強するのか、具体的にどんな方面の能力が不可欠のかなど問題も明確にした。二回生になった後で、授業が難しくなって、圧力もどんどんきた、一回生の学習方法をそのままに変えらないと、これからの授業はもっと辛くなるかもしれない。だから、自分の合う学習方法を探すべきだ。

故郷の大気汚染の問題を解決するために

私は総合政策学科に入って、これから環境政策方面に進みたいと思う。

なぜかという、私は三年前に日本にきて、一番感じたのは日本の空気がキレイということである。なぜ一番感じるのは空気がキレイなことなのかを言ったら、私が生まれてからずっと住んでいた故郷は炭鉱の町と呼ばれ、空気汚染がひどかったからだ。

2008年に、米国の科学誌「ポピュラーサイエンス」に「世界で最も汚染された10の都市」が掲載され、石炭産業の発展により大気汚染が進む山西省がリストに入った。

山西省には中国の4分の1の炭鉱が集まっている。石炭の露天採掘、製造、運輸で、町が汚染された。そして、自然資源の優勢で、石炭が主な燃料として使用されて、山西省の工業発展が進んでいる。工業発展の一方で、排出された廃水、煙などで環境汚染も飛躍的な進んでしまった。空気の中に、目で見えるくらいの黒い粉末が浮かんでいて、道路の両側の緑化植物や建物など、全部黒くなっていて、どんな物でも、外に置いたらすぐにホコリをかぶってしまう。人の鼻や目さえその黒い粉末で苦しんで。こんな空気を吸って生きてきた私なので、日本の空気のキレイさが実感できる。だから、私はなぜ日本の空気こんなにキレイなのか、今の中国は大気汚染で苦しんでいるのかを気になった。

私は、故郷の大気汚染は他の人がやったこと、自分とは関係ないと思わない。なぜかという、山西省は経済成長させるために石炭依存して境汚染したが、私たちの生活は豊かになったからだ。そして、父親もずっと石炭関係の仕事をしていたので、自分たちは石炭のおかげで豊かな生活をもたらしたのに、汚染した都市から逃げるの恥ずかしい。人間は自分のことだけではなく、他の人の利益を脅かしたかどうかとも考えないといけない。だから私は、自分たちがやったことは自分たちの手で治すという責任を取りたいと思う。だから、卒業したら、日本に残るじゃなくて、両親が居る故郷に帰って、大気汚染を治すために少しでも力を入れたいと思っている。

そして、中国の大気汚染は周りの国も及ぼされているので、大気汚染対策に関する国際協力も求めている。例えば、日本の北九州も昔から、重化学工業発展による大気汚染されたが、環境再生は効果が顕著な「奇跡の町づくり」として世界に紹介されていた。私は環境分野で多く経験を持つ日本から、色々な指導や助言をもらいたいと思う。

具体的な有効な解決方法はまだ研究していないが、これからの大学生活は故郷の大気汚染を解決するために頑張りたいと思う。

話し相手の紹介

話し相手については、私は知り合いの中の二人をどちらにしたほうがいいのかを考えている。一人は、大連で働いている実家の友達である。なぜこの人を選んだかという、彼は青空が大好きで、ほぼ毎日空の写真を撮って、タイムラインに投稿している。こんな青空が好きな人だから、きっと空気汚染について、自分の考えがあるかなと思った。専門は電気工学だが、私は専門じゃない人々の環境に対する考え方を知りたいので、この人を選んだ。

もう一人は、一回生の時、リサーチフェアで知り合った「中国の低炭素モデル都市づくりー日本の環境モデル都市と比較」というテーマを研究している関学のM2の先輩である。私の研究したいテーマとすごく似ていると思った。だから、先輩と話し合っ、きつといい経験になると思った。

話し合いの結果

対話相手は大連で働いている地元の友達にした。なぜかという、地元の友達だし、専門的な人ではないが、動機文を書くなら故郷の空気汚染が私と同じ実感できるかなと思うからだ。

テレビ電話で2時間の話し合いをした。友達は今大連で医療器械の開発についての仕事をしている。大学も大連なので、今まで大連で7年くらい生活している。大学に入るために大連に来て、沿海都市だから空気は地元よりずいぶんキレイだと言った。青空が大好きな友達はほぼ毎日空の写真を撮って、タイムラインで投稿している。なぜそんなに空が好きなのかを聞いたら、友達が「空の色や空にある雲の形がいつでも変化しているから、それをみるの楽しい。雲がない時は、青空だけを見ても、心が落ち着ける」って言った。

そして、私は自分の研究テーマについて紹介して、どう思うかと聞いて、友達は思わず「いい専門ですね」って言った。理由の一つは自分が空大好きだから、地元の空を元の色に戻させたい、そして、地元に戻る時にマスクつけなくても気分悪くならないって言った。その後、友達も経済発展がある程度に進んでいる中国は環境整備しないと行けない段階になったと思うって言った。詳しい専門的なことはわからないが、pm2.5などの大気汚染で生活が影響されている。

友達は旅行好きで、いろいろな町へ行ったことがあって、例えば杭州や成都や北京など、山西省以外の町の大気汚染の程度もちょっとだけ紹介してくれた（目で見える範囲以内）。大連見たいな沿海都市や杭州と成都などの南の方はまだますが、北の方の町の大気汚染はひどいって言っても過言ではないって言った。特に北京と河北省と山西省と天津である。マクスをつけないと、喉と鼻が痛くなるって言ってくれた。

友達がこれを研究テーマにしたら、卒業論文を書く時ちょっと難しいかなって言ってくれた。今の知識では有効な対策が出せないが、卒業論文になったら、自分の対策の有効性を検証するの難しい。友達は理科なので、数学みたいな学科はどんな過程でも、結

果は唯一性があるが、政策的な対策だったら、結果の実行できるかどうかを検証するのはちょっと難しいかもしれない。大気汚染は簡単な問題ではない、有効な政策でも効果が見えるまでは時間かかるかもしれないが、色々な先進国も成功したから、頑張ってくださいと応援してくれた。

結論

二人の話し合いはどんな有効な方法が出せるためじゃなくて、ただ私のやりたいことについてどう思うかを聞いたかった。この話を通じて、もっと自分のやりたいことがわかってきて、自分の信念を高めた。

そして、応援してくれて友達が私のレポートをよんでくれて、本当にこれについて研究したいという気持ちがわかってくれて、応援してくれたから、自分は十五年くらい生活していた故郷の空気をキレイに治りたいという気持ちをもっと強くなった。友達言ったように、大学の研究テーマにして、卒業論文になったら、自分が出した対策の有効性を検証するのは難しいかもしれないが、できないわけでもない。

これからの2年間くらいの大学生活で、中国の大気汚染の現状を研究し分析して、色々な先進国と比べて、相手国の有効な政策や法律など一々整理して、中国の現状を合わせて、中国のオリジナルな大気汚染に対する政策を立つ。

例えば、第二次世界大戦後、他国に類のない経済発展を遂げた日本は、さらに深刻な環境汚染を経験することとなり、大きな社会問題となっていた。それらの問題に対処するため、公害対策基本法をはじめとする環境法がせいびされ、公害の克服に相当な成果を上げた。私たちがこれら成果顕著な対策の一部を引用して、中国の現状に合わせて、政策の結果が予測できると思う。

簡単に言うと、私は人の成功した経験を参考して自分に合わせて作り直すということをやりたい。なので、私は自分のやりたいことについてすごく自信を持っている。

感想

毎回の議論を踏まえて、クラスメートに質問されて、もっと自分のやりたいことが明らかになってきた。はじめの時書いた文は、ただ思い出したら書くみたいな感じで書いた。何回の発表と質問を解答につれて、自分の文章だけではなく、自分のやりたいことの論理性が見えてきた。そして、今学期にはじめて友達に自分のやりたいことを紹介して、友達の視点を聞いて、新しいものを得た。

参考文献

北九州ホームページ <http://city.kitakyushu.lg.jp>

環境省 「pm2.5の健康影響と対策」産業医科大学 呼吸器内科学 迎寛
https://www.env.go.jp/air/osen/pm/info/cic/attach/briefing_h25-mat03.pdf

環境省 「大気汚染対策に関する国際協力について」平成27年12月
<https://www.env.go.jp/air/osen/pm/conf/conf02-03/mat05.pdf>

環境再生保全機構 「日本の大気汚染の歴史」
www.erca.go.jp/yobou/taiki/rekihi/index.html

観光と私

総合政策学部 総合政策学科2年
権 炫喆

1. はじめに

旅行は繰り返される日常から抜けて新しいものに触れ新たな体験をし、自分を振り返ることができるのだと私は考えている。特に私にとって旅行というのは、新しい経験や物に触れられるきっかけを与える貴重な体験である。そのため、私はこの大学生活の中で旅行に関する研究を試みたいと思った。旅行といっても色んな分野があると思うが、中でも特に私が留学生ということもあり、海外旅行をするときに外国人が経験する言語的な困難と解決策について研究していきたいと思う。

2. 経験ときっかけ

私は子供のころから、食べたことのない食べ物に挑戦したり、行ったことのない場所を探検したりなど、何か新しいことにチャレンジすることが好きだった。それは行為や食べ物に限らず、物や技術にも該当する話であった。その中で一番興味を持ったのはIT技術で、興味がある分ニュースを見たりIT博覧会に行ったりしていた。

だが、高校卒業式の前に初めての海外旅行として、また初めての一人での旅として来た日本旅行で私の考えが変わった。初めての日本は私に色んなことを悟らせてくれた。また、未だに忘れられない思い出を残してくれた。特に私が驚いたのは秩序と清潔さだった。韓国ではあまり見られない綺麗な道や人々の市民意識などが印象的だった。また、今までの暮らしと異なる文化、言語などを体験して、私は今までの自分は井の中の蛙であったと感じるようになった。もしかしたら、今こうやって留学に来られた原因となったのも、当時の旅行がきっかけだったのかもしれない。また、この旅行をきっかけに、私は観光分野に関心を持つようになった。

しかし、楽しかった分、もちろん困難もあった。当時にはまだ日本語を本格的に勉強していなかったため、様々な所で困難を経験したことを覚えている。例えば、旅行の最後の日に帰国便の飛行機を乗るためには、東京駅から空港まで行く列車に乗る必要があったが、私は当時スマホも持ってなく、ガイドブックに乗せられている紙の地図のみを持ち歩いたため、複雑だった東京駅で約30分程度の時間を一人で迷っていた。前の私は今よりもかなり人見知りの性格で、さらに今のように日本語も話せなかったため、人に聞くこともできずに一人で駅内をずっとさまようしかなかった。そうやって迷い続けて、やっと空港行きの電車乗り場を見つけ、空港まで向かうことができた。その当時私は、海外旅行をする時に外国語もあまりできない人や私のような人見知りでもすぐ道を探せたりすることができればいいと思ってた記憶が残っている。したがって、私は私のような人がまた現れた場合、一人でもうまく旅行できる方法はないだろうかと考察し、それについて3回生の時から研究してみたいと思うようになった。

もちろん今はスマホが普及してGoogleなどを使えばすぐ道案内や翻訳などができるため、当時と比べればすごく楽になったといえる。しかし、すべての国や地域でGoogle mapのようなアプリが使えるわけでもなく、翻訳のアプリも未だに完璧に訳せる段階ではないと私は考えている。また、観光地での外国人向けの案内サービスなども不足している国が多い。したがって私は外国人が旅行で経験する言語、性格、文化的困難とその解決策について研究したいと考えた。

3. 対話する相手紹介

私が対話する相手は、韓国人で韓国に住んでいる高校時代の友達である。この友達は日本にもよく来ており、日本以外にも海外旅行を年に2~3回はしているので私のような経験談を多く聞けるのではないかと思い対話したいと考えた。また、その友達は私と同じく人見知りな性格

を持っているという私と共通している部分があり、また日本語や英語を話せるという私とは違った部分もある。そのため、多様な視点で色んな意見を聞けると思い対話相手として選んだ。

4. 対話した後

対話は主に3つのテーマで行われた。一つ目は、「人々の性格によろって海外旅行での困難は生じるのか」についてで、二つ目は「観光客に対する支援は、ちゃんと行われているのか」についてだった。また、三つ目は「旅行での問題を無くすための工夫」について話した。上でも述べたように、彼は旅行が好きだという点で私と似ているため、楽しく対話できた。

(1) 性格

まず、私と彼の共通している部分から話を始めた。性格が与える旅行での問題点について私は確かに問題があるという意見を出した。いくら言語的能力があっても、それを前向きに質問したりする勇気がなかったら、結局困難が生じるのは同じだという私の意見に彼も同意してくれた。彼も特にヨーロッパなどを旅する際、英語ができるため看板を読んだり案内放送を聞いて理解したりするなどの困難はなかったと言った。しかし、旅の途中いきなり知らない場所に行ってしまった時などの突発的な問題などには性格上の問題で聞くことが難しかったため、かなり困難だったと彼は付け加えた。このような話の結果、彼のように言語能力が十分であっても性格が問題になって旅行で困難を経験する場合もあるという事が分かった。

(2) 支援

次は観光客への案内などの自治体や国からの支援についての話をした。問題点の中で特に挙げられたのが、案内施設の不足というところだった。そして彼も私と同じく、特に日本の場合には観光客にあまり優しくないという意見があった。ここで優しくないという言葉の意味は上でも述べた観光客への案内などが、あまりにも不十分という意味である。近くの神戸市の案内所の場合でも数も少ない上に、観光客が活発に活動する午後の時間帯には閉めている。このような問題は神戸市だけでなく、他の地域も似ていると友達は述べた。特に彼は北海道から沖縄まで、私よりも日本旅行を楽しんでいるので言葉に信憑性があった。

(3) 解決法

また、彼とこのような問題を解消するためにどのような工夫があるか、またそれらの問題点は何かについて話した。やはり一番として出てきたのはスマホだった。スマホが出た以来人々の生活はより便利になった。外国語で書かれているメニューがあっても、スマホの通翻訳アプリを使ってメニューを決めたり、初めての道も地図のアプリを使って探したりするなど、海外旅行をするにも前と比べて便利になったと言える。しかし、上記でも述べたように、このようなものはまだ完ぺきとは言えない。地図のアプリを使えない国や地域もまだ存在しており、翻訳や通訳のアプリも、未だに開発レベルは未熟だと私は思う。そのため、ARやAIのような次世代の技術が出るまでは実用性は無いと考えた。

だが、今回の彼の意見は私と少し違った。彼はこのようなアプリが開発されたことで、これをきっかけに利用者数が増えれば、今よりも何倍以上改善される可能性があると言った。また、このようなアプリが今は不十分でも完全に使えないわけではないので良いと思うという意見をもらった。確かにアプリが完ぺきではなくても全く使えないというわけでもなかったため、考えてみれば彼の意見も一理あると感じた。

5. 終わりに

私は最初に研究したかったテーマは、ARをメインテーマとしたもので、ARの応用方法やリスクなどについて研究をしたいと考えていた。また、旅行はこのARの応用例としてARを用いた旅行などを挙げる予定であった。しかし、ARをメインテーマとした際の話し合いを通して考えが変わった。ARについて研究をしてしまったら、今自分が所属する学科とも会わず、ゼミとも合わないという問題が生じてしまう。ARの応用について語るといっても、全体的に

理解するためには、どうしても技術的な側面に触れる必要があり、またそれは上でも述べたように自分と合わないため、自分の研究テーマを変えることにした。

そこで、私はARに重点を置くより、AR以外にも興味を持っている観光について研究をしてみるのはどうかと考えた。その結果、海外で旅行をする際に言語的障壁などの問題を重点として、逆にARのほうを解決策の一つとして挙げる方式で研究をすることにした。こうすることで自分の学科やゼミと合い、また自分が好きな分野を研究できるため、このテーマに決めた。ARについても少し触れようと考えているため研究が楽しみである。

6. 感想

今回のレポートは、自分が研究したいテーマを見つけるためのものであった。私は上でも述べたように、テーマが完全に変わってしまったが、そのためこのレポートの授業に意味があったのではないかと考えている。もし、最後に一回だけ提出する形のレポートだったら、私は今のようにテーマが変わることはなかったと思う。なぜなら、授業を通して様々な意見を聞き、指摘を受けるという過程を通して自分の考えも少しずつ変わっていたからである。以前からはっきりしてなかった卒論のテーマも、この授業を通して分かってきたため、私にとって有益な時間だったと感じている。

誰が親を世話するのか？

——中国と日本の比較

きっかけ：

今年3月、71歳のお父さんが病気で倒れた。71歳にして、誰かに対しても避けようにも避けられない病気になりやすいピックだと思われるが、それで仕事ができなくなった親には子供として、誰が親を世話するのかを一人っ子の家庭とも一人っ子でない家庭とも考えるべきだ。

現状：

中国では、親を面倒するのは兄弟が分担するという形になっている。パターン①：兄弟は全て男の場合：長男から次男まで交替制のように親を自分の家に招待して世話し、病気になったら医療費の部分が皆は分担する；パターン②：男女ともある場合、長男の家に世話され、他の兄弟は医療費を分担する；長男でなければ、男の子の家に世話され、姉妹は費用を分担する。パターン③：男がいない家庭で、少なくとも姉妹一人が婿入りして親を世話する。うちは兄、姉と私、兄弟3人であるため、当然、パターン②に当てはまる。

とはいえ、現在うちの兄弟三人はそれぞれ忙しいことがある状態で、兄は自己起業者として、普段に身が離せないぐらい仕事に没頭しているため、月に家にいる時間が両手で数えられるほどだ。姉は教師で毎日学校に通いながら二人の子供を育てている；義理兄さんは一人っ子だから、夫の親も面倒しないとイケないのだ。未婚な私、日本の大学に通い、学業に励んでいるため、実家に戻り、お父さんに養うとすれば、そのような余裕がないと言えるだろう。ちなみに、以上述べたように、長男の兄がいるから、姉妹二人がただ費用を分担するのみで結構なはずものの、昔の中国では、兄一人のことになるわけだが、現在の中国は経済レベルが向上し、男女平等で養老義務を負うのを呼び上げ、女としても、結婚であろうかなかなか別にして、収入がもらえる限り、男と同じように親を世話すべきだという意識が高まっている。

そういうわけで、お父さん今の状態に限っては、誰かに側につくほうがいいのかとされる。

原因

なぜ以上のような三つの世話パターンがあるかということ、中国の文化伝統は「百善孝為先」、相手の人柄を判断する時に、「親孝行」をお先に位置づけや否や判断基準にして行うからである。たとえば、親は病気になる時、必ず、兄弟のうちに一人が親世話の責任を負うべきだ。これが中国の独特の文化と言えるか、また、この文化は中国人の親孝行という意識を根から育つと言えるかをともかくとして、何しろ、こういう意識が中国の現代まで引き続いている。

より現在の日本はどうだろうか？ 少子高齢化社会という言葉がよく耳に入るが、親世話のことに及び、若者の中心テーマとなるわけだ。知っている限り、日本は福祉施設が十分に備えているため、若世代はこのように親を世話することなど心配が要らないそうだ。また、年寄りとは定年した後、定年者を後雇用する機構もあるし、自分の能力を生かせるし、仕事できなければ、預けてもらうという養老施設もある。その中に、年寄りとは専門で十分の世話がもらえる一方、豊かな生活を送ることもできる。兼ねに、日本の養老保険などが国から支えてくれるため、いくら身近な世話する人がいなくても、病気になったり動けなくなったりする時に、専用施設に入れば結構だ。

一言で言えば、日本には養老施設があるからこそ、万が一親は病気になる時、子供は親を預けても

らえばいい。日本は親であれ子供であれ、親を養老施設に送ることが普通の存在だとみなれ、最善な対策と言えるのではないか。

一方、現在の中国では、そういうような施設もあるが、お世話を受ける人はほとんど子供がいないものだ。自分の子供がある場合、施設に入ることなんてありえないことだ。なぜなら、子供として、自分の親を自分で世話しないと親不孝となっているためだ。親側から言えば、自分の子供がいるくせに、養老施設に送られ、恥ずかしい限りだ。

対話の相手を選び：

今度のテーマに関しては、対話者を二人選んだ。なぜなら、両者は違う国のものため、それぞれと対話し、対話した結果を比べ、両国が親世話のことに對し、違い点が明らかに見えるのではないかと考えるからだ。

対象1：自分の兄

理由：労働能力がないお父さんはずっと一緒に住んでいて、お父さんの生活とよく関わっている長男である。お父さんは倒れてから以来、当然、自分の生活方式も変わるのもはっきり見えるようになって、話対象になるからだ。

対話時間：ビデオ通話で1時間。

対話結果：倒れたお父さんを専門看護の人に頼んだらどうでしょうか？そこで、自分は仕事と親世話が両立できない状況から解放し、お父さんも知り合いができて、楽しくなるかもしれないというような話を聞いた。それについて、厳しい答えをもらった。兄さんは自分が長男として、親世話の責任を負うべきだと思われ、確かに、お父さんをそのような施設に送れば、自分は仕事が出来て、十分のお金が預かるとしたら、お父さんの生活が豊かはずだが、それより責任感がなく、親不孝に見られると厳しいことになってしまうから、人間とは言えないだろう。お父さんから、自分の子供がいるのに、養老施設に送られ、寂しいだろう。（この点について、私の考えと揃えている。）今の年齢にて、元気に生きてくれば幸いだ。お父さんがもう数十年住みなれた環境から追い出され、つらいことではないか？そうしたらお父さんはうれしいか？おそらく、私の仕事には多少迷惑なことになるかもしれないが、お父さんは自分のそばに安心で、自分は頑張ればなんとなくいける、自分の親は自分が世話すべきだ。

対象2：日本人、以前職場の先輩

理由：先輩は兄弟2人、80歳で一人暮らしのお母さんがいる、私の状況とよく似ているからである。

対話時間：対面で2時間

対話相手の話結果：

人生の暮れに向かえ、親は家族と一緒にいいか一人暮らしがいいかどちらのほうかベストだと思うのかを尊重しよう。親は苦勞に子供が育ち終わって、老いていくといつの間にか一人になっていきたいかもしれないが、自由のスペースの中に、好きな時間で好きなことをやる親が近年にめっきり見えるようになってくる。たまに子供と一緒に賑やかで嬉しいことを求めるが、子供がいない時に、一人で自分の布団の中から幸福感ももらえることもあるそうだ。そのため、家族と一緒にいて楽しく会話ができる環境を作ったり、お母さんは一人の時、健康に豊かにさせようとしたりすることを見つけるべきだ。

親が病気になったら、確かに深刻な養老問題も出てくるかもしれないが、その時、国の福祉のおかげで、経済面も世話面も心配がなく、親が楽しく生活するようにすれば十分だ。一方、親は自分の、子供が仕事しながら、自分を面倒することが迷惑だと思われ、親であれ子供であれ、自分のことを自分でやることだ。

また、母親は今生活が一人でいけるから、一人で結構だ。できない時になったら、養老施設に送ればいいという話もある。なぜなら、子供のそばより、自由に生活できることを重視し、自分が80歳で人生の夕暮れなので、自分が好きなことをやりたいと思いながら、自分の子供には迷惑をかけたくないためだ。

結論：

養老問題に関しては、国によって解決方法もそれぞれだ。福祉は国にどこまで支配されるかをさておき、主に両国人間の考えが違うという結果を以上の対話からもらった。対話中心に沿い、中国では、子供でも親でも、養老のことには子供に頼むのが当然だ、この点について、親子の認識は相違点がない。子供はいくら大変であれ、親世話のことを他人に頼んではいけない。親も自分の家にいることが幸せだと思う。(現時点でクラスに6人も年を取ったら自宅で過ごすのを求めたいと思っている)そのため、中国は伝統文化を重視し、文化から育ちられた意識を義務として身につけることがわかってきた。それに比べて、日本は子供としては、親の気持ちを配慮し、親が好きなことをサポートすることだ。したがって、日本は親の意志尊重のほうが重視するのではないか。それに加え、親側は自分ができることを自分でやり、自分ができなければ、子供に迷惑をかけずことにする、そうすると、親側も子供たちによく気を配り、これも意志尊重の一種だと言えるだろう。中国が自分の親を自分で世話しなければ、親不孝になると言う義務づけと日本は子供が親の意識への尊重および親は自分を世話することを子供に頼めば迷惑になるという機嫌配慮がはっきり対照になるだけに、両国の文化が違うからだと考えられる。

文化というものは数百年および数千年のうちに時代交替から生じられ、文化が次々と伝承する伴い意識も変わってくると考えられ、いいことか悪いことか評判するわけにはいかない。要するに、文化が違うゆえに、同じ事に対して解決方法も違う、この点から考えればいいのではないだろうか。

追伸：

今度の研究テーマにより、親世話は文化違いと関わるということがわかってきた。そのため、解決方法より、客観的な評判を行わずに、ただ、この点をわかった上で、この意識を広げていくことのみを求めたいと考えられる。中国と日本は同じ事に対して、どういう風に対応するか互いにわかってくれば、今度の目的ではないだろうか？

今度授業の学び（感想）：

去年の自分と比べ、日本語が上達になってきたことを実感した。しゃべる方が諦めてはいけないことが痛感だが、それより上達面も二つある。

一つは自分が何を伝えたいのか文章を作る際、伝えやすい流れを工夫し、その中から、自分の考えも変わってきて、伝える方法を掴めるようになった。

二番目はどうやって相手に理解してもらおうかを考える折、お先に相手の話意図を掴む重要性がわかってきた。方法としては、こちらが聞き手として、ちゃんと聞き、想像ながらもなぜそのように話すかを考えた上で返事できるようになった。すなわち、国か個人の日本語レベルか自分なりの話し方があるので、理解した上に伝え、ということが身に覚えた。

今度のテーマが設定され、最後に解決方法を求められたが、全てのことにはふさわしい方案があるわけでないことがわかってきた一方、より自分のテーマを完成するために、方法を求める際に考えが細かくなってきて、それが今学期の収穫だ。

中国の環境教育

張 テツキン

1. 初めに

中国では改革開放以来、急激な経済成長を果たした。しかしながら、その代わりに中国の環境状況は悪化し続けていく。中国の環境問題は大気汚染だけではなく工業排水や生活排水などによる水質汚染・土壌汚染、酸性雨などの問題があり、もはや厳しい状況になっている。

2. 中国の状況

1952年イギリスのロンドンで発生した「ロンドンスモッグ事件」は史上最悪規模の大気汚染による公害事件である。

ロンドンの家庭では暖炉の燃料として石炭が使用しており各住宅の煙突から煤煙によるスモッグが激しくまた工場などの生産も石炭からエネルギーを摂取した結果、未処理の硫黄酸化物(SO_x)が多く出すことが「ロンドンスモッグ事件」の原因である。

中国は急速な経済発展に伴って、石炭、石油などの化石燃料の消費量が急速に増加していく。中国のエネルギーの75%は石炭に依存しているのが現実である。特に、石炭の出産地山西省と黒龍江省の大慶石油出産地は北部に集中しているので政府は重工業産業を北部に置いた。

北部の遼中南工業基地と京津唐工業基地は中国最大の重工業基地であり、その地理的位置は非常に近く、化石燃料を多数使用している。また、燃焼排気からの脱硫などの設備は十分でなく、さらに冬季になると北部は非常に寒いので、暖房での石炭ボイラーが多く使用され、石炭燃料の使用は急増する。したがって、北京や天津地方は大気汚染に影響した。

2103年「PM2.5」事件が発生後、私は日本に来た。当時飛行機から降りた時、日本に対する第一印象は「きれい」であり、中国の環境と大きく違った。また、日本で住めば住むほど、日本人の環境への意識が高いと感じた。

本当に環境意識が高くなると環境状況は改善できるか？そうでは限らないと思う。しかし、経済発展しばかりで環境意識がないところでの環境状況が良くないことは事実である。確かに環境教育による環境意識の向上は一時的には効果が見えないけど、長い目で見ると環境汚染の状況は根本的に改善できるだろう。若者に環境の大切さを伝え、彼らに環境への配慮を養成することで社会の柱になり、環境意識を持ちながら生活することができると思う。

なぜ日本人の環境意識そんなに高いのか？調べた結果、昔の日本も環境問題があった。特に高度経済成長期(1950年代後半から1970年代)の時、地域住民に大きな被害を与えた。その解決法として認められるようになったのが環境教育であり、1990年には日本環境教育学会が創設され、1993年の「環境基本法」の設定と2003年の「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」の策定により、日本の環境教育は正式に始まった。

しかし、中国(2001年)は日本より早く環境に関する授業課程「基礎教育課程改革綱要」を出したがなぜ2013年の時点で環境はよくないのか？

3. 話相手

今回会話した相手はQさんで、彼女は蘇州の教育庁で働き、その前も教師の職を勤めたため、中国の教育については詳しいだろうと思い話相手として選んだ。対話した結果、結構使える情報を得た。しかしながら、今高校の勉強している内容はまだ不明なので今年進学した大学一年生の弟とも話した。

4. 話し合いの結果

「今、中国の環境教育で問題あるのはどのへんですか？」と彼女に聞き、得た問題点は4つである。

4.1 小学校の教科書

まずQさんが考えた初めての問題は中国環境教育の教科書（小学校用）である。Qさんが「小学校環境教育の本の内容は適切ではない」と言った。したがって、彼女から資料を入手し、自分が分析した結果以下の結論が出た。

図1は中国の教育庁が小学校の環境課程を教える先生たちに配った概要である。概要によると、小学校3年生から6年生の間で32章の内容を勉強しなければならない。章の数は問題ないが、問題があるのは章の内容である。

	上学期	下学期
三年級	植物	植物的生长变化
	动物	动物的生命周期
四年級	我们周围的材料	温度与水的变化
	水和空气	磁铁
	溶解	电
	声音	新的生命
五年級	天气	食物
	我们的身体	岩石和矿物
	生物与环境	沉和浮
	光	热
六年級	地球表面及其变化	时间的测量
	运动和力	地球的运动
	工具和机械	微小世界
	形状与结构	物质的变化
六年級	能量	宇宙
	生物的多样性	环境和我们

図1 教科書全体の流れ

科 目 区	学 年									授業時数 (比例)
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
区	品德と生活		品德と社会			思想・品德				7-9%
			科学			科学				科学お生物、物理、化学
			科学			科学				7-9%
	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	20-22%
	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	13-15%
			外国語	外国語	外国語	外国語	外国語	外国語	外国語	6-8%
	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育と健康	10-11%
	芸術（あるいは音楽か美術）									9-11%
	総合実践活動									16-20%
	地方と学校カリキュラム									
週間時数	26	26	30	30	30	30	34	34	34	274
年間時数	910	910	1050	1050	1050	1050	1190	1190	1122	9522

図2 中国における新カリキュラム

小学校の教科書を通読した上で、環境に関係ある内容はわずか5章しかない残るのはほぼ生物と理化学の基礎である。つまり、環境の課程と言っても環境分野の勉強は全体に占める割合の不足が小学校教科書の問題点だと考えている。

教育庁は環境保護の知識よりも、理系の知識のほうが重要だと考えており、環境問題を軽視されている。

4.2 学校が実行する課程

「もちろん中国の環境教育は教科書の問題だけではなく、その課程にも問題点がある」とQさんが指摘してくれた。

中国における新カリキュラム（図2）としては小学校での「科学」授業、つまり環境課程は7%–9%しかない。その代わりに「総合実践活動」は16%–20%に占めている。日本の小学校にも「総合実践活動」があり、その時間は16%であるから、別に「総合実践活動」はいらぬわけではない。しかし、実際に調査した結果中国の小学校では「総合実践活動」をきちんとやっている学校は少ない。ほとんどの学校は他校の実績と対抗するため6年生の時、「科学」と「総合実践活動」の課程時間を中学校入試の時必要な「数学」、「外国語」と「国語」に分けて分配した。

試験しないからいらぬことは学校のほうが環境課程を軽視すると考えている。

私が小学校や中学校の時代も同じだった。期末試験に近づき、学校側は試験しない課程を授業せず、他の試験する課程と入れかわりした。

4.3 試験と観念

また、弟と話した結果としては現時点の大学受験制度と当時の高校生たちの考え方が分かった。

中国現時点の教育は点数を非常に重視する。例えば、有名な中学校高校は1年生から2年生までに各科目を週1回試験を行い、成績により順位をつける。各学生順位と点数はまたネットを通じて親の携帯に送る。また、3年生の時高校入試や大学入試に対応するため、各受験科目は二日に1回試験を行う。したがって、その科目の重視度は試験の有無と総点数の多少から見える。

中国教育部によると、小学校で勉強する「科学」は校内試験を行わず、成績書での評価もつけない。中学校での「生物」¹は校内試験するが高校入試時は試験しない。また、高校の「生物」は副科目²として大学入試時に試験を行う。

したがって、試験のところも環境教育は重視されてないことが見える。

また、弟に「なぜ大学専門の中環境が人気ではないか？」と聞き、「環境専門の学生たちは卒業後、就職しにくいだから」と答えた。その返事を聞き、私は各種の資料を調べた。その結果、確かに環境専門は中国国内ではモテない専門で、各会社の中でも必要とされない場合が多い。

4.4 教師

2005年第11巻第4期 重慶大学新聞（社会科学版）中国環境教育現状及び対策分析により、中国は環境教育での投入は不十分である。その理由の一つは投入資金が少ないため、環境教育を教えている先生は環境専門の卒業生ではなく、他の専門の卒業生であり、系統的に環境知識を勉強しなかった。彼ら自分自身の環境を保護する意識がまだ不十分である。

また、現在大学で環境コースに専攻する大学生はごく一部であり、彼らは卒業後すべて教師になるわけではない。その結果、環境を教える教師の数は少なく、他の先生に替わるしかない。

5. 結論

一年生の時も私は自分の故郷の環境状況について書いた。初めて書くとき、中国の環境状況はそこまで嚴重と気づけなかった。しかし、資料を調べれば調べるほど中国の環境状況はすぐ改善しなければならぬと感じた。

その時も先進な科学技術や化学手段を使ったら改善できないじゃないかと考えたが政府側はもうすでにこのようなことをやっていた。しかし、環境状況はあまり変わってなかった。そこで、私は中国の環境問題を解決するのは環境意識を高まって初めて改善できると気づいた。

現時点での中国は環境保護への意識が足りなく、環境教育制度や教科書にも問題があると思う。日本にいる私は他の人より他国の環境状況が体験でき、環境の大切さが感じられる。また、環境教育が完備した日本の知識も勉強でき、3年生は環境方面に学習していき

¹ 生物：中学校と高校は環境に関係ある内容を「生物」と合併した。

² 副科目：大学入試時地理、歴史、生物、化学、物理五つの科目の中二つの科目を選択し試験する。試験の結果は点数をつけないがA、B、C、Dをつける。たとえ必修科目の点数が一流大学に到達しても、副科目はA以下の場合、もう一流大学に入れないという試験制度。

たいと考える。

参考文献

原島省. 『環境儀』 NO.21. 独立行政法人 国立環境研究所. 2006/7/31

郁波. 『義務教育課程標準実験教科書—科学』. 教育科学出版社. 2016/5

感想

この半年は自分の目標をもっと明確するため毎回文書を書いた。しかしながら、課程の進み方について少し遅いと感じている。

また、二年生になると他の留学生との交流もだんだん減る傾向が見られ、せめて日本語の授業で積極的に交流したいと思い、毎回教室変動するのは無理だが、授業内容は他のクラスと触れあいできるかなあと思う。

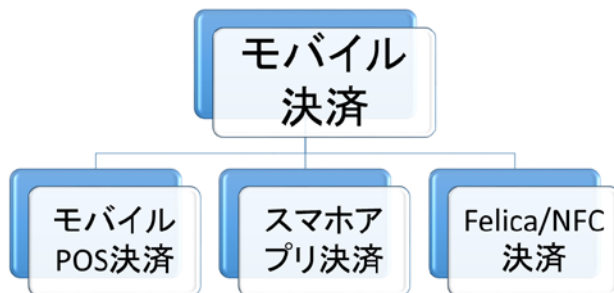
日本ではモバイル決済サービスの普及

メディア情報学科

雍 林希

モバイル決済とは

モバイル決済は三種類を分かれている。以下の図を示した通り、モバイル決済には三つの種類がある。モバイル POS 決済、モバイル Felica/NFC 決済、スマホアプリ決済が広く知らせている。そして、それぞれの特徴を持っている。



1、モバイル POS 決済とは企業が所有する市販のスマートフォンやタブレットを POS 端末として利用する決済方法である。皆さんも一度は iPad やタブレットなどをレジの POS 代わりにしている店舗を

見た事があるのではないだろうか。こうした端末を使ってカード決済をすることをモバイル POS 決済というのである。クレジットカードを使う時には、以下のようなクレジットカード専用のリーダーを端末に取り付けて、消費者のカードをスワイプさせて決済をする。代表的な企業には Square、Paypal、楽天スマートペイ、Coiney などがある。モバイル POS 決済はクレジットカード利用をさらに増加させる可能性があるが、磁器クレジットカードの不正利用の多発する諸外国では、クレジットカードからシフトする動きもあるようである。そこで重要視されたのが、スマホアプリ決済とモバイル Felica/NFC 決済である。

- 2、NFC 決済とは非接触 IC カードで利用されている近距離無線通信技術の FeliCa や NFC を利用した決済である。要はおサイフケータイですね（ちなみにおサイフケータイは FeliCa です）現在 NFC 機能は多くアンドロイドモバイルを搭載されている。しかし、日本では NFC 機能があるにもかかわらず、この機能を使っている人が僅かである。
- 3、スマホアプリ決済とはスマホアプリ決済とは消費者にインストールしてもらったスマホアプリ上にコード化した会員 ID を表示させ、そのコードを POS のバーコードリーダーで読み取らせて決済する方法である。代表としては、中国の wechat pay やアリペイなどの会社である。ID バーコードや QR コードを読み取らせて迅速に会計できる便利なツールと考えられる。この便利の支払い方法は、日本ではまだ普及していない。それはなぜだろうか。

(引用 [https://coiney.com/wechatpay/?referer=yhoo_s_22_2_0_0\(coniey\)](https://coiney.com/wechatpay/?referer=yhoo_s_22_2_0_0(coniey)))

以上、三つのモバイル決済手段を紹介したが、そしてそれぞれの特徴がある。しかし、日本ではモバイル決済の利用率は非常に低下している。日銀レポートの調査結果によると日本のモバイル決済利用率は 6% である。そして、中国は 98.3% という巨大の差がある。なぜ、モバイル決済は中国で活発しているのか、それは中国のモバイル決済大手企業テンセントに例をとって説明する。

中国にある wechat について説明。Wechat は 2011 年に中国大手 IT 企業テンセントが作った無料コミュニケーションアプリである。2016 年まで wechat は中国のスマフォでの使用率は 94% を上回っている。そして、利用している人の総人口は 8 億人を越え、200 以上の国や地域で活躍している大人気アプリ。中国人日常生活の一部として、不可欠のアプリと言い過ぎない存在である。

Wechat はなぜ中国で大人気なのか。それは wechat と一型になったいる whachat pay のおかげだと考えられる。Wechat pay とはバーコードまたは QR コードが直接支払うためにスキャンすることをベンダーに WeChat のクイック貸金ページの上で示す。Wechat pay は速く、分かりやすく、効率良くという三つの役割がある。



中国には財布を持たずにスマートフォン (QR コード) での支払い方式は全国で広がっている。デパートから市場までスマートフォンがあれば、いつでもどこでも迅速に支払うことが可能である。テンセントが成功したポイントは LINE PAY 通りのように、スマートフォンで簡単に決済送金ができるサービスが提供されており、具体的にはタクシーの支払いや映画館でのチケット購入など、オフラインでの決済にも使える大変便利の次世帯支払い方式である。この支払いことは外部アプリにも提供されており、wechat 外からも支払いに使えるようになっている。

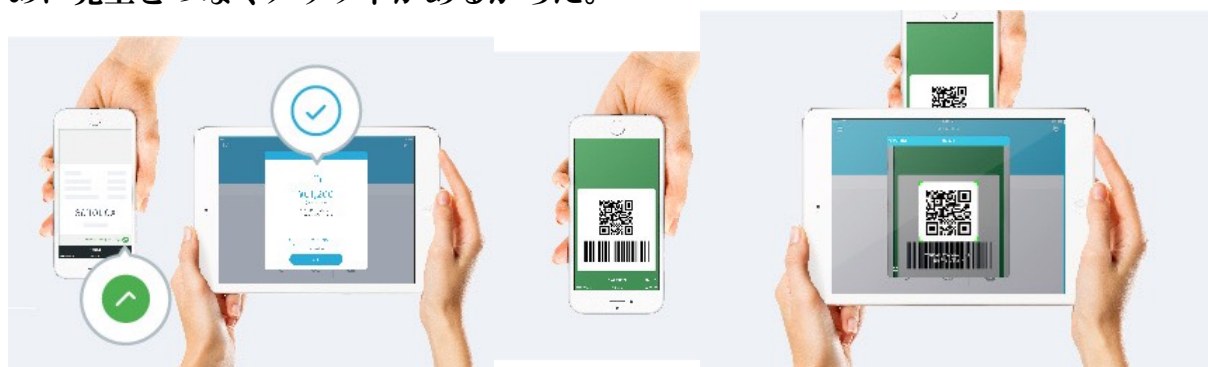
中国のモバイル決済だとアリペイ (Alipay 支付宝) が有名で、日本でもローソンや免税店、家電量販店で青いステッカーを見たことがある人も多いだろう。しかし、これを使うには原則として中国大陸の銀行口座が必要なので、中国に定住してない人には難しい。一方、WeChat のペイメント機能である WeChat Pay (微信支付) は、2017 年 03 月 11 日時点では、中国大陸の銀行口座がなくとも、日本のクレジットカードで登録できるようになった。(Alipay と WeChat の戦場は日本へを参考した。参考

元 : <http://shao.hateblo.jp/entry/wechat-pay-for-japanese>)

日常生活の中で私は Wechat pay をよくつかうので、その便利性を非常に実感している。新年、誕生日など親と友達からの送金は簡単でやり取りできる。親からの送金など、自分の口座の中に入金して、日本の銀行で日本円を引き出す。従来、中国の銀行から日本の銀行までの送金手続きは非常に手間を掛かる。親は中国の銀行の窓口へ行かなければいけない。そして、中国側高額の手数料（約200元）が必要になるし、日本の銀行側も手数料がかかる。Wechat payがあれば送金をお待たせなく、すぐ入金して、すぐ使える。

この夏休みは帰国するつもりだ。以前、親は空港まで迎えて来る。早く会うかもしてなれけど、実は日本に留学している私は人民元がないので、タクシーや地下鉄などで乗れなかったためだ。今は父母に心配なく、自分でも帰れるようになった。それは、wechat payのおかげだ。出発前に、タクシーを予約して、簡単に wechat pay 決済できる。空港に到着したら、水を飲みたい、現金がない。それも心配入りません、空港内の自動販売機は wechat pay 支払いも可能だ。

現在では、日本でも wechat pay の支払いサービスを提供している店が増えている傾向がある。それは急増する中国旅行者のお客様に関連する売上を伸ばしたい、中国旅行者のお客様を自店に誘導したい、中国で普及しているスマートフォン決済を自店でも使えるようにしたいという戦略をとっている会社が多くなっている。そして、お店側ではカード読み取り端末が不要なため、コストが収め、売上とつなぐメリットがあるからだ。



日本のモバイル決済の利用率が低いという原因は現金主義である人が多い。調査によりますと現金で支払う人の割合は51.4%、その次はクレジットカード21.6%が分かった。そして、私も実感した経験がある。大阪の百貨店でバイトしている私はレジで会計作業を担当である。計算する際に現金を使うお客様が多いと感じた。そして、調査の事実を確かめるために、調査を実施した。時間：三時間。場所：デパート。対象：デパートのお客様 レジ対応できるサービス：ID、クレジットカード、ギフトカード、モバイル決済サービス、NFCなどのサービスを提供している。結果によると、55名様のうち、33名現金、20

名クレジットカード、2名ギフト券でした。この三時間だけのデータから見ると、やはり現金を使う人は圧倒的に多いと分かった。だから、現代技術を普及したと言っても、現金主義がある日本社会ではモバイル決済の実現は難しいと考えられる。

対話相手

対話したい人は、専門学校時代の親友である。現在は〇〇大学総合文化政策学部にて在学し、且つメディア分野を中心に学習している。彼女はなぜウィーチャットがただの数年で大範囲での普及を成功させたのかについて興味を持っている。その為に、ウィーチャットのことを深く知るため、広告とブランド戦略論の授業を履修している。そして、ウィーチャットを使って、振り込みや支払いなど頻繁に利用している。共にウィーチャットに興味があるので、対話相手として、知識共有できると考えている。

話内容：

彼女は東京に住んでいるので、直接会うチャンスはすくない。そのために、1時間ぐらいの音声通話という形で話した。もちろん、wechat をルーツとして、話している。なぜwechat は中国で大人気なのかを少し議論した。彼女の考えは情報の時代が来たので、スマートフォンの普及率が高いからである。スマートフォンを依存している人が多くなった。歩いてスマートフォンを弄るひとが良く見られる。第二は中国の若い世代が多い。彼らは新しいものに好奇心がある。周りの人に影響しやすいという性格の人が多くいると思う。第三はwechat を設立前に、同じグループを所属している「QQ」の利用者が多い。つまり、事前にファンがあることも考えられる。他の原因もあるかもしれない、以上三つは主の要因だと思う。

調査から見ると、wechat の成功は、中国のモバイル決済の利用率は98.3%を示している。このモバイル決済の環境があるからこそ、見事に成功した。

結果：日本ではモバイル決済サービスを普及するのは難しいと考えられる。便利と言われても、使う人が少ないという現状がある。なぜなら、調査によると、モバイルサービス決済を利用する割合は6%であることが分かった。そして、現金を使う人が多いので、いわゆる現金主義の人が多くである。モバイル決済サービスを提供するにもかかわらず、使う人も増えない。

授業評価：Ⅲの授業は昨年の授業の内容が多く変わった。レポートの字数だけではなく、内容も深くなったと気を付けた。昨年のテーマは大学でやること、今年は学ぶが深めるために、研究に向かう。いわゆる、入門から専門化への変

化があると考えられる。後、この授業にとして、早めに研究する方向を決まった点は留学生に対して、あり難いことだと思う。そして、クラスが変わったことは、いろんな個性がある人と出会って、貴重なコメントをもらった。ここで心より感謝したい。

参考元：https://coiney.com/wechatpay/?referer=yhoo_s_22_2_0_0 (coniey)
<https://pay.weixin.qq.com/index.php/public/wechatpay/home> (wechat ホームページ)

人民中国——中国を知るための日本語総合刊誌 2017/06 人民中国雑誌社

Web 参考：<http://jp.techcrunch.com/2017/06/21/report-mobile-payment/>
モバイル決済利用率は日本 6%、米国 5.3%、そして中国では 98.3%——日銀レポート 2017/06/21 投稿

Web 参考：<http://card.fregrancy.net/?p=6959> なぜ日本人は現金主義なの？博報堂の調査結果から分かるお金に対する意識 2017/01/24 投稿

AI につながるビッグデータ

李拯宇

1. 初めに

今の社会は高速発展の社会、科学技術が発達し、情報の流れ、人々間の交流はますます密接になって、生活もますます便利、ビッグデータはこのハイテク時代の産物と思う。

市販されているデータベース管理ツールや従来のデータ処理アプリケーションで処理することが困難なほど巨大で複雑なデータ集合の集積物を表す用語である。「その技術的な課題には収集、取捨選択、保管、検索、共有、転送、解析、可視化が含まれる。」

大規模データ集合の傾向をつかむことは、関連データの1集合の分析から得られる付加的情報を、別の同じデータ量を持つ小規模データ集合と比較することにより行われ、「ビジネスの傾向の発見、研究の品質決定、疾病予防、法的引用のリンク、犯罪防止、リアルタイムの道路交通状況判断」との関連の発見が可能になる。

2. きっかけ

元々生活の中では電子製品に興味を持って、例えばコンピュータDIYや携帯修理など、でもビッグデータに興味深い理由は自分の性格と関係ある、性格の中自分一人の時間が大好きそして自分の時間を増やすために怠ける部分も多かった、普通の怠けるは例えば何か宿題とがあったら、期限だけを覚えて直前からやるあるいは全然やらないのは過程の怠けると思う。でも僕の場合は目的の怠けると思う、出来るだけ宿題を早めに終わらせて、残った時間はより余裕で過ごせるのは好き、つまり縛られるのは嫌いという事、特に僕の場合は期限というのは意識していない、ただ宿題があったのは覚えてた、でもよく考えるのは怖くなる、もし忘れてらどうしたらいいでしょう。ならば誰か生活や仕事の中いつでもどこでも手伝ってくれれば楽になるかもしれない、そして偶然でビッグデータという技術を知って夢を実現出来るの可能性が見えた、もしみんなはアイアンマンの映画を見た事があれば J. A. R. V. I. S という AI が羨ましいでしょう、それは未来ビッグデータからの AI 技術だがすぐ興味があった、今の生活でパソコン等を使ってもう十分便利と思うが、もっと便利できれば断る理由はないでしょう、実はコンピュータや携帯でもビッグデータの一部になっている、色々なデータからビッグデータを構成して生活や仕事色々な面も以前より便利になっていて、インターネットから情報やデータ集めるが簡単になって、でもこれは個人情報安全性の問題が出てきて、そしてこれを心配して今までもスマートフォンやコンピュータを使わない人まだたくさんいるが、時代の進歩は止められないでしょう、つまり未来人類発展の方向はビッグデータの時代とは間違っていないと思う。ならば他の人より一歩前にビッグデータを知って、いつが役に立つかもしれない。

3. ビッグデータ——予測

例えば 2020 年、あなたの会社の車で向かう途中、ナビゲーションシステムを予測の交通量から、自動的にあなたに最適な交通路線を選択、あなたの飲食の習慣によって車内推薦システムは予測して、そして沿道の朝食の店を推薦する、あなたの電子社交補佐もうあなたの興味からソーシャルネットワーク情報を自動選択、全ては可能と思う、実はいまま

でもテスラなどの会社は車自動運転がある場合で実現できて、近いの未来はデータ分析から生活を変えられる所はまだあると思う。大データはまだスタート段階、AIなどの技術もまだ遠いそして様々な挑戦がある、でも将来の発展は楽観的だと思う。

4. 対話相手について

今は実習している高校の友たちと話をしたと思う、彼はビッグデータに関係する仕事を内定がもらって、今年卒業したら会社に入るのは決めている、そして彼は大学四年でずとビッグデータに関する内容を学んでいたから、僕よりビッグデータの認識が深く色々聞いてもらえると思う。

5. 対話結果

上木曜日友達と2時間ほどの電話をして、対話はほぼ僕を質問して彼は答えて、もし僕は間違っていた所があったら彼は説明してくれて出来るだけ専門な知識を避けるの状態で行った。

ビッグデータ未来の可能性について僕は専門ではないので、すごく興味があった、そして彼は例をあげてもらった。ビッグデータの可能性に対して、まずはビッグデータという技術の存在意義の話。ビッグデータは電気技術の存在意義と似ているって言った、ビッグデータは電気と同じ全ての基本。「例えばコンピュータは先あったか、また電気は先あったでしょう」。これまで言ったら僕も分かった、今のビッグデータは多分みんなが見える所はランキングとか作る時はよく使われているが、未来ビッグデータからのAIや人工知能な技術は電気からのコンピュータやインターネットの関係になるかもしれない、同じく人の生活に便利を提供すると思う。

この話を聞いて僕は当時新しい問題が出て来た、ビッグデータはこんなに素晴らしい技術ならこの技術から新しい時代が出てくれるかって聞いた。彼は誇っている表情で答えて、もちろんでしょうって言った。そして彼の理由も教えてた、人間は色々なエネルギーを発見して工業時代に入って、当時電気はこの中の一つだけ、その時代は電気が電球を作るのは多いがここまでは満足していないでしょう、色々な電気製品が作られて、時間にかけてコンピュータやインターネットなども発明された。ただ100年の時間電気のおかげで人間の科学技術は前の何千年も超えた、そして情報化の時代から情報やデータの高速的な交換からビッグデータ技術が出た。ビッグデータはこの情報化時代が一番基本そして使われている技術から、次の時代はビッグデータの運用たとえばAIや人工知能から決めるでしょう。

このところ、毎日のように「人工知能やAI (Artificial Intelligence) という言葉を見聞きするようになった。将棋やチェスよりはるかに難しいとされる囲碁で、人工知能

「AlphaGo」が世界最強のイ・セドル棋士に勝った」、という話題も記憶に新しい。AIも理論や想像する物だけではない。

6. 結論

対話によって自分の研究テーマはどのぐらい物が前より詳しく分かった、そして続けて進みたいと思う。なぜかというと自分の人生により便利な部分が送りたい。AIやビッグデータは今の生活でまだみんながそんなに理解できないのに、未来の発展は色々な可能性が

ある。人類イオンの発展の歴史から見ると、ビッグデータの誕生は時代進歩の必然と思う。そして、ビッグデータからの AI 技術のほうが人類の未来発展の方向でしょう、今でも色々な小説や映画の中で、30年後の人類社会を予測した。人口智能がある世界はみんな誰でも期待していると思う。その未来はもう想像の世界だけ残っているのではない、その世界までの道は今の人類も探していた、後は歩いていくだけだ。そして AI や人口智能などの技術も更新している。具体的に言うと、過去の人工知能は、膨大な知識やルールなどを人間が全て教える必要があり、現実社会で通用するレベルにはなかなか近づけなかった。だが、最近の人工知能は「機械学習」、つまりコンピュータが勝手にルールを学んでくれる技術が軸となっている。

「特に、大量のデータから自分で物事を分類するルールを見つけ出す「ディープラーニング（深層学習）」という技術のおかげで、人工知能の能力が飛躍的に進化し、実用レベル、適用の幅、可能性が大きく広がったと言われている。周辺技術の進化も人工知能の発展の大きな要因だ。「ビッグデータ」や「クラウドコンピューティング」など大量データをネットワークで集めて処理する技術、ネットワーク自体の高速化、ヒトから機械まで全て繋がる IoT（Internet of Things）、大量の画像を高速処理できる GPU（Graphics Processing Unit）の進化など、近頃よく話題になる IT の進化が、実は人工知能の発展、実用化にも直結している。」

僕の知る限りはまだ色々な運用がある、例えば、市場変化の予測まで織り込まれた自動株取引、コールセンターの自動対応、ロボットタクシーや受付窓口ロボット、製造や物流の高度な自動化など、これまで人間が対応せざるを得なかった様々な場において人工知能の活用が進み始めている。

ビッグデータは人工知能の発展途中の大切な一環、ビッグデータや他のいろんな技術がなければ、人工知能の発展は今日のレベルまででも50年かかるかも知れない、ビッグデータの視野から人工知能を認識するのは一番分かりやすいと思う。今の自分は AI や人工知能よりビッグデータのほうが研究になりたい、そしてこういう方面で勉強に行く。

7. 参考文献

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc121410.html>

2017.6.26

<https://www.ai-gakkai.or.jp/whatsai/AIwhats.html> 2017.6.18

<https://thefinance.jp/fintech/160621> 2017.5.21

8. 感想

最初の800字から3600字に書き直して、字数は4倍ぐらいにして、でも自分に対しての変化はこれより大きいと思う。毎回の授業でも新しい考え方が出って、新しい視野が見つかる、質問を答えてから自分の考えにもよりはっきりになって、クラスメイトから問題や文章のつまる所を指摘してもらって、自分で一気に書いた文章よりいいと思う、そして自分のやりたい事や研究した事がこの文章を書くおかげで少し方向が分かったのは一番得る所と思う。

2 クラス

担当 勝部 三奈子

コーヒーと日本人

呉正好

私は日本にきてから、はじめて日本人はコーヒーが大好きなものということを分かった。調べましたが、2012年のデータによると、日本国内のカフェ(喫茶店)の数は7万店だが、これは常設店の数字なので、イベントで設けられる期間限定のカフェは含まない。前述のコンビニやファストフードチェーン店なども含めると、コーヒーを提供する店はもっと多くなる。毎朝店に立ち寄ってコーヒーを片手に出勤するビジネスパーソンが続出。そこで、同じアジアの国なのに、なぜお茶の国・日本でコーヒーやカフェが人気となったのか。総合的にいうと、一番の理由は日本のコーヒーが消費者と向き合い、徹底して味を改良して新商品を開発することだと思う。たとえば中国から伝来したコメは、梅やシャケなど多彩な具の入った「おにぎり」を生み出し、ラーメンでは「醤油味」「味噌味」「塩味」「とんこつ味」を出す外食店がたくさん出てきた。わたしはもともと中国ではコーヒーあまり飲まなくて、その代わりにお茶のほうが飲みやすいと思っている。でもわたしはコーヒーを飲まないというのが、ブラックなんだけど。クリームと砂糖をいれたら、やはりおいしいと思う。

なぜ日本人のアレンジ力がこんなに強くて自分達に合わせて外来物を変えられるのか。それに比べると中国のほうがあんまり力が足りないと見えそう。ものを自分に合わせて変えることが難しい。さらに改良して新商品になることがもっと困難だと思えますけど、日本人ができた。ものをアレンジするのがいくつの行動をしないとイケない。それは最も重要なのは広告の活用だと思う。日本だけじゃなくて、広告と言ったら常にイメージ戦略と関連するかもしれないけれども特に日本ではきちんと人気な俳優あるいはタレントを利用して各自の利点活かし、広告にでももらえば、わりと見る手が買う意欲が高まりになる。そういう企業が現在日本に主流になっている。日本においてCMと言うものは人の感性に訴求しているものが多いと言われている表現ストーリーの面白さや登場人物のしぐさによって興味、共感を獲ようとする物が確かに多いのである。

日本のコーヒーだというと、缶コーヒーはさすがに日本の特定のものとは言えると思う。日本に来たばかりの時に自販機で缶コーヒーはよく見掛けてたんだけど、自分はコーヒーがあんまり好きじゃないから全然買わなかった。凄く暑い時だったと言う時期があるけどポカリとかばかり買ってた。その時は自販機で売ってる缶コーヒーが温かいのか冷たいのかも分からなかった。僕はいまだ日本の自販機がどういう仕組みで缶コーヒーを温めてるのかよく分からないんだけど、自販機自体がホット専用なのか、それとも特定の缶だけホッと出来るのか、それが熱して温める風な機械がついてるのか謎なんだ。あるとき自販機で缶コーヒーのポスターを見ると、やっぱりメーカーからただコーヒの製造ではなく、小さいものから客にストーリーを伝える。

会話相手

今回私の会話の対象とされる人は今のバイト先の仲間である。彼と一回話しをして関学の卒業生だったということが分った。毎回彼が休憩のときには必ず缶コーヒー一本を買うことにする。しかもコーヒー買うたびに種類も変わるらしい。

対話結果

今回お互いに時間を作ってコーヒーの話を少しした。彼と話すといろんなコーヒーの効果をもらった。彼に対しては毎日早起きするので、朝から元気じゃないと仕事を上手くできない。コーヒーを飲むとある程度で興奮させることができる。やはり日本のコーヒーの効果と中国のお茶の作用が一緒だと考えらる。次いつからコーヒーを飲むのと聞くと、高校からだと答えてくれた。しかも動機って聞くと自販機で買って初めってコーヒーを飲んだって言うことも分った。そして他缶コーヒーを理由って聞いたら、やっぱりデザインがいいな、コーヒーでも実はみんな味が近いと思うから、どっちを飲んでも変わらないですけど、自販機の前で立つて選ぶときにはさすがに迷ってたんだ、仕事の間の休憩に入ると体が疲れてしまって、疲労を緩めるために特に目の疲労なんですけど、結局デザインがいい 缶コーヒーを買ってしまったと彼がこういった。次一番印象が残った缶コーヒーって何かと聞くとジョージアの男ですみませんの缶コーヒーシリーズだった。彼は このポスターを初めて見たとき、心が震えた。当時 4 月に転勤し、通勤に片道 2 時間を要し、仕事もきつく、毎日雑巾のようにボロボロで、このままではどうにかなってしまうのではないかと思っていました。しかし、このポスターを見て、私だけでない。誰かが、誰かのために一生懸命仕事をしているんだということに改めて気づき、心が救われました。ただの缶コーヒーにとどまらないすべての働く男たちを癒し、励まし元気付けてくれる男のオアシスと位置づけ、一生懸命働く男たちをジョージアの世界にいざなうと彼が答えてくれた。その後私がそのジョージアの cm を見た。ただの缶コーヒーの広告だけじゃなくて広告から見ると人に励む意味を伝える。最後にも缶コーヒーのデザインをしてもらえばどんなデザインをするかと彼に聞いたらスラムダンクのキャラクターを入れたいと答えてくれた。

彼と話し合った後改めて缶コーヒーを認識した。そこ充分でものをアレンジしようと思えば、質が大事って前提だけど、深く相手にきちんと意味を表すことも重要だと思う。缶コーヒー発明したのは日本人である。缶コーヒーを作るきっかけになったのは、UCCの創業者上島忠雄さんが列車が停車した駅で瓶入りのコーヒー牛乳を飲んでいたら、列車が発発時間になってしまい飲み物を残してしぶしぶ列車に乗ったのがきっかけです。当時の飲み物の主流はビンであり飲み終わったら、買ったお店にビンを返却しなければならなかったのです。上島さんはこの出来事をきっかけに「いつでも、どこでも手軽に飲めるコーヒーは作れないだろうか」と考えて作り上げたのが、缶コーヒーのはじまりだ。その後続々缶コーヒーメーカーが出てきて、各メーカーも明らかに分っていると思うんですけど、味の改良もだいぶ進むことが難しいので、デザインの方面から研究テーマだ。特にバブル経済の時代。バブル経済が崩壊し、日本経済は大規模な景

気後退に入りました。社会全体に燃え尽き感が蔓延していたと言える。このような社会心理に 대응べく、ジョージアは当時に“今まで、さらなる経済成長のためにただひたすら突き進んできた日本社会、そして働く日本人。ちょっと立ち止まって一息ついてもいいんじゃないか”というメッセージを送ると売上がぐんぐんになりつつ人を励んで賞賛の言葉をもらい、ウイナーウイナーの企画だった。

日本ではどこでも気軽に買える缶コーヒーですが、日本のように豊富な種類の缶コーヒーが24時間外でも自販機で売って買えるのは世界的にすごいことだ。さらに日本では冬になると自販機やコンビニでホットの缶コーヒーを買って手を暖めながら飲む人も多いと思う。デザインはやはり現在最も人間が活かして観念を変える手段だ。今の時代は商品を全面的にアピールする手法と言うよりは、イメージで、CMのインパクトで消費者に良い印象を持ってもらうインパクトを第一に考えた作品が主体となっている。メディア情報学科に入れば、知識を身につけ、いいデザインを出そう。今の時代は異文化に満ちる世界なので、異文化を適応することがますます重要だと見られる。過去に留まると、未来に進まない。いまはアレンジの世界、自分のものを守り続ける同時に新しい道を切り開こうとする勇気が必要がある。メディア学科に入って、自分のアイデアを思い切り掘り出したいと思う。

この半年を経て、日本語の授業を受けて、特に今回の研究レポートを通してこれから私が進む方向を明確した。それとともに授業中で自分が書いたものについて先生とクラスメイトいろいろな意見や評価をしてくれて、ほんとに感謝の気持ちがいっぱいである。

大学で研究したいこと

邵一帆

動機文

授業の時、先生があなたたち3年生の時何を研究テーマにするのか。これを聞いた時、実は研究したいことは何も考えていない。授業中、いろいろなことをかんがえた。最後は、環境問題について研究することを決めた。

私は環境問題の中一番勉強したいのは廃水の処理問題である。なぜ私は廃水についての問題を研究したいのか、理由は三つである。

一つは、昔、私のふるさとは、廃水の流れは非常に悪かった。私の故郷は中国では有名な布の生産地である。そのために、たくさんの布の工場と染色原料の工場がある。これらの工場は全て大きいではなく、三分の一は小さい工場であり、工場があるところはバラバラなので、政府の管理することは難しい。5年前、廃水の排出が一番よくないとき、家に前の川の色が変わって、変な匂いも出てしまった。家に悪い影響が受けられた。その時から、私はこれらの工場に嫌いな気持ちを切り替えた。川が悪くなった原因は隣の工場が廃水を川に流れることだと思った。そのために、なぜ環境政策があるのに、この工場は遵守していないか、この疑問を持って私はいろいろな資料を探した。環境政策が完全ではなかったと環境局の検査は厳しくなかった。私とその二つの結果を考えた。最近のふるさはそんな厳しい問題もないし、環境の政策もどんどん改善している。

二つの理由は、故郷の風景はとても綺麗で、有名な遊覧地も多かった。旅行地としてはいい場所である。故郷の遊覧地の周りは河川がたくさんあるから、もし廃水の汚染は厳しい状況になったら観光客は来ないはずだと考えた。そのために、私は廃水問題を改善する方法を研究したいである。

三つの理由は、今、総合政策学科に入った。この学科は三つの分野がある：言語、公共政策、環境である。私にとっては環境のほうに興味がある、現在も、いろいろな環境に関する授業がとっている、環境問題を改善する方法を勉強している。また、総合政策学科に環境専門の先生が多いので、たくさんの知識がもらえる。現在の世界には、環境問題は多く発生している。各国は環境問題への関心が強いので、環境コースに卒業したら、将来、仕事のチャンスがおおくなるかもしれない。

現在の環境問題を解決するには、具体的な時間として、現在のところ、大気汚染でも10～15年、水質や土壌の改善には20年以上を要するである。これら基本的な環境汚染問題のほかにも、今後さらなる課題も解決が必要になる。故郷における環境問題の解決に向けては、まだ長い戦いが続くのである。

それで、私は環境コースに入って、環境問題を改善する方法を勉強する。三年生の時は環境分野（特に廃水）を研究する先生のゼミに入りたい。現在はこの研究する内容は仕事に関連があるかどうかまだ分からない、自分がこれに対して趣味があるからけんきょうしたいである。

対話相手

私は布の工場に仕事をしている友達を選んだ。彼は私の高校時代のクラスメイトである。彼の家族はずっと布に関するの仕事をしている、現在、彼は自分の工場を管理している。布を作るの工場である。布を染色したの廃水と布を作るために必要な化学原料の廃棄物をどう処理するか、その流れを彼に答えをもらいたい。また、彼は現在故郷の環境政策はよく知っているし、具体的に廃水の排出の流れも知っているから、そのために、彼と対話した。

対話結果

友達と対話をしたか、いろいろなことをまらった。対話を開始して、まず、私は「現在あなたの工場の経営状況はどう？」彼にこの問題を話した。彼は「現在は忙しいよ」と答えた。本当にびっくりだった、私の思いは今、故郷には布産業の従業員たちは失業の人が多くではないか。彼にこの質問を話した、結果は、たくさんの工場は閉めたから、たくさんの人が失業した。これらの工場は環境政策の指定指標が合わないからである。そして、私は、「あなたの工場の工業廃水はどう処理する？」彼は「廃水処理場があるから、廃水は処理場に排出する。」と答えた。2014年から、故郷は工場を集中管理のために、工場は集まって、一つのところに移動した、そして、このところに廃水処理場を建てて、廃水を統一処理する。これは故郷の運対手段の一つである。そして、私は「何が、近年の政策はどうなるか？」と言った。彼は「今の政策はたぶん紹興で一番厳しい政策だよ」と答えた。現在、政策によると廃水の排出の水路はすべて見えるようにする、地下にある水路でも全部は分かるようにする。または環境局の検査員は工場に入って三分内で排水路をすべて検査できるとの要求がある。そのために全市の90%くらい布に関する企業を改善しなければならない。その次、私は「今の環境問題に対してどう思うが、工場は環境への影響は

厳しい？」と言った。彼は「現在、中国の環境問題は厳しいと言う状況は皆知ってる、私は別に思わない。そして、工場は環境に影響がある。でも今はもう改善したから、たぶん少ないと思う。」で、私は「もし工場が閉めたら、環境は改善できるが。」と彼にそう言った。「それなら確かにすぐに改善できる。でも、工場を閉めたら、紹興の経済は悪くなるはずである。そして、工人たちはどうやって生きる？」たしかにそうである、現在の社会には経済発展の変わりに環境の破壊は不可欠だと思う。

今の環境対策

友達といろいろ話したか、自分でも資料を探した、現在の中国はどんな対策があるのかが分かった。「中国において、環境の保護と改善は国の基本的な政策として、中華人民共和国憲法第 11 条に国が環境と自然資源を保護し、汚染とその他の公害を防止管理すると定められている。中華人民共和国環境保護法を施行し環境保護の方針、任務、政策措置をより具体的に規定した。

環境に関わる中国の最も基本的な政策は「経済、社会、環境を同時に発展させることである、即ち経済発展、都市／農村建設、環境保護を同時に実現しなければならない。そこでは経済発展を追求すると同時に環境保護を行う、という開発と環境保護のバランスが求められている。

環境保護の基本原則は、(1) 汚染を未然に防止する、(2) 汚染者（開発者）が費用を支払う、(3) 環境管理を強化することである。これらの環境保護に関する国家レベルの基本政策は、「中華人民共和国環境保護法」を始めとして多くの環境関連法に盛り込まれている。」一参 1

環境汚染は一国あるいは局所的な問題に留まらず、国境を越えた国際的な問題に発展してきており、その被害、影響を軽減するには各国間の協力が必要になると考えられる。

結論

相手と対話して、自分が分からないことを聞いて、いろいろな資料を探したか、環境問題を引き起こす大きな原因は経済活動にある。そして、環境問題を解決するために経済活動を止めるわけにはいけない。経済は私たちの生活を支えているものであるし、また環境保全活動にもお金は必要だ。経済と環境は、どちらかを我慢しなければいけないものなのか。という疑問が出た。実は、私の両親は布産業に関するの仕事をやっているから、この方面はよく感じた。現在は故郷に環境はもう改善した、でもそれに対して家の経営は悪くなった。私の家だけではなく、ほぼ、大部分の中小工場の経営は厳しい状態になった。

そのために私は環境と経済の両立をはかり、持続的な経済社会の発展を実現するための道を探したい。または、環境問題を影響は単に一国だけではなくで、隣国でも問題が受けられているから、もし先進国から経験や設備を自分の国に助けてもらったら早めに解決できることは信じている。今の世界では、このことも進んでいる、<地球サミット>、<気候変動枠組条約締約国会議（COP）>、<京都議定書締約国会合（CMP）><パリ協定締約国会合（CMA）>たくさんの国際会議がある。今後、「深刻化している環境問題に対して、開発途上国の貧困解消と経済発展を進めつつ、環境保全の利益を損なわないように、持続可能な開発を実現する方法が模索される。特に、先進工業国と開発途上国とが「共通だが差がある責任」をふまえ、各々どのような環境対策を採用すればよいのか、開発途上国に対する有効な国際協力をするのが一番重要なことである。」一参2

感想

一年生のときは、1000字程度の文章を書くにも非常に難しい、でも今の時点には、2000字、3000字の文章はよく書けている。その方面にとしては進歩していることが分かる。または、この半年の授業を過ごして自分がどんな方面に進むことも少し分かる。

参考文献

- 1、中島正博 中国の環境管理制度と大気汚染対策、「広島国際研究」第3巻，1997
- 2、http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2008pdf/20080905035.pdf 中国の環境問題とこれからの日中環境協力

中国の都市部と農村部の貧富格差について

上官欣欣

国際政策学科に入って、国際問題について主に研究したい。国連が掲げる三つの課題がある。それは、平和・発展・人権を指している。その中で「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals:MDGs)」の実現を目指して、2015 年までに達成すべき 8 つの目標を掲げている。第一の目標は極度の貧困と飢餓を撲滅することだった。具体的な数値目標として、1990 年に比べて 2015 年までに飢餓人口の割合を半減させることを目指してきた。開発途上国における飢餓人口の割合は 1990～1992 年の 23.3% から 2014 年～16 年の 12.9% まで、おおよび半減した。だが、中国は一番開発途上国として、経済発展の速度が速い。2015 年における中国の一人あたり GDP はやく 8000 ドル (約 89 万) 今や日本抜いて世界第 2 の経済大国までに上がった。しかしながら、先進国の行列に入れたい。中国は実際には先進国とトレだけの差があるというのか。様々な原因の一つとは、激しい貧富格差問題だと思う。

経済学では、所得格差を表す統計上のツールとしてよくジニ係数が使われる。その値は 0 から 1 の間で、0 の時に皆が同じ所得を得ていることを意味し完全に平等であり、逆に、1 に近いほど格差が大きいことを意味する。0.4 は社会騒乱が起きる警戒ラインと認識されている。中国国家统计局のジニ係数により、2003 年のジニ係数は 0.479 だったが、2008 年に 0.491 とピークに達し、その後徐々に低下している。しかしながら、都市部と農村部の所得格差を縮小するためなら、大変な時間がかかると思うのである。だからこそ、都市と農村の貧富格差原因から考えて、解決対策について研究したいと思う。

まずは都市部と農村部の二重経済構造である。中国は重工業の発展を主として、農業開発の怠れることによって、農民の収入長期的な成長を遅く、不安定である。ところで、都市部と農村部の労働市場セグメンテーションと都市労働市場をもたらす都市と農村戸籍システムの 2 つの種類を実装して以来、農村部の余剰労働力の自由な流れを妨げ、そして都市、農村部の二重構造のパターンを強化し、多くの障害に直面して長期的な都市と農村の戸籍制度で農民が雇用機会均等や給与水準や利点および移民農家などを享受していないがあり、これらすべての要因は、客観的に農民の収入の伸びを制限する。都市部と農村部の所得格差が拡大しているわけだ。国家経済政策は都市発展に偏ると富の不平等な分配のも原因の一つと思う。政府は産業や都市の発展を促進するために優遇政策を開発したが、農業の発展と農民の利益を犠牲にして、資本を農業から工業に転向する。同時に農民の負担を増し、格差がもっと深刻になっていく。

現状の状況に対して、格差を縮小できるのか、中国のみならず、日本の経済格差問題も存在している。そして、東アフリカの極度な貧困状況と中国の格差問題を考えると、世界の貧困者のほとんどが農家である。農家がもっと生産的になれば、貧困者の半分以上収入を増やして、貧困から抜け出せるのである。農業性が上がればより多くの食べ物を手にでき、農村部の貧困な人々自身を助けるだけでなく、健全なコミュニティと経済の繁栄に貢献するのである。そして農家の生産力が上がれば環境への影響も軽減できるのだろうか。中国の都市と農村の二重経済構造の改革と戸籍制度改革を進んでいる上で、公民の権利を平等享受すべきだ。

対話相手

私の対話相手は同じ学科の4年生の先輩B。彼は園田先生のゼミに入っている。同じ国の人なので、そして同じ学科の原因で、共同話題があると思う。日常会話をするとき、彼は最近北朝鮮の核開発に対して、興味を持っている。そして、彼の父は政府で働いているから、政府の情報や対策などの話も聞き取れる。だからこそ、中国の現存問題、そして相手側に国際問題についての考え方を学ぶことができ、思わなかった概念を得るかもしれない。

対話結果

彼はまず都市と農村の格差によるの影響を話した。非人為的な経済的要因と人為的な政策的要因の二つが考えられる。経済的要因といえば、非人為的な影響で経済の発展につれて、都市化率が上昇し、産業構造の転換を促し、最終的に所得格差に影響を与えるという考えである。政策的要因といえば、政府を通して人為的な影響で主に財政政策によって間接的に所得格差に影響を及ぼすという考えである。本文の二重経済構造と政府の優遇政策の内容を同意した。そして、中国の労働力について話した。日本の製品は80%以上中国の工場で完成させたのである。なぜ中国の人件費が安いのか、それは外来の農民労働者が多いのか、それとも、労働者の素質と能力によって、費用の高底を決めるのか。貧困の地域の子どもたち、高い質の教育を受けることができなくて、未来の労働力の費用も低くなる。でも安価な労働力のおかげで世界最大の輸出国となったが、緩やかに労働力を低下させていくという意見が出てきた。そして対策の内容については、農家の生産力を上げるのは、技術と良いの機器、素材が必要なので、政府からの資金援助が欠かせない。そして地域周辺環境の違いによって、対策も様々だ。だがら、自分が住んでいる地域状況から研究するといった。自分が住んでいる都市と農村の格差問題で所

得格差のほかは、地域の資源を十分生かしていないを気がついた。各家で農業をしているが、それは自給自足ためである。最後に中国の地域格差と産業の格差が大きい原因もあった。調べると、「改革開放」以来、沿海部の山東、江蘇、浙江、福建、広東の五省と北京、上海、広州の三つの直轄都市は目覚ましい発展を遂げたが、内陸部の発展は相の大企業、特に中央政府が支配する企業で就職する者は収入が高くなる。中では、石油、金融、交通、通信などの巨大な国有企業は中国の国内市場における独占的地位を利している。

結論の見通し

全体的話は主に国家の政策制度と国家地方経済発展のバランスに関して、話した。中国の格差問題は世界一番と言えらると思う。データを調べた後、驚く数値が出てきた、それこそ、自国の都市部と農村部の貧富格差を研究したいのである。国内のサイトで調べるだけでなく、ほかの国のサイトで自国の現状問題を調べる必要があるという結論がでた。なぜかという、他国からの視点と自国からの視点が違うからである。他国の評価や提言などは自国の本当の状態を知るための近道だと思ふ。そして、国際学科に入ると、どのゼミに入るのか、中国の経済分野に関して研究するのか、考え直すべきと思ふ。

感想

現在、中国の経済力はどんどん強くなっている。しかしながら、国内部の問題についての政策制度力が弱いと思ふ。最初から、先進国との差がある原因の一つは貧富格差と思ふが、ほかには環境、国家の安全性、社会福祉などの差も大きく存在している。新聞記事やテレビなどで貧困生活の画面を見た、驚くほかには、涙が出るほど切ない。四川省大涼山区美姑県では、農民の自宅はいまにも壊れそうなドアに窓のない真っ暗な部屋であった。左側は牛のエリアで右側は人間の居住スペース。レンガの上に置いた木の板が一家5人の寝床。調理スペースは数枚のレンガを「コ」の字に組み立てられ、レンガの上に鍋を置いて下で柴を燃やす。室内に椅子やテーブルは一つもない。この一家の昼食は発芽した茹でジャガイモだった。肉は正月など年に3回ほどしか口にできない。米を食べるのは10日に一回という。中国貧富格差問題について、心をかけて、研究したいと思っている。

大学で研究したいこと

趙伯岩

僕は大学卒業して、多くの会社で社員として経験した後に自分の会社を作るという考えがある。なぜ僕は社長になりたいか？それは会社の全てを控えるからだ。サラリーマンと違って、リーダーになってから、決定権を持ち、自分の判断で会社の全てを決められる。自分は人を使う方になりたい。人に使われたくない、僕の性格が決めたことである。もう一つ原因は若い頃起業失敗しても構わない。その失敗を乗り越える自信と精力がある。人生は長いから、ずっとつまらないサラリーマンの生活を過ごしたくない。もしチャンスがあれば、僕はチャレンジしてみたい。

どんな人が社長になれるか？僕はリーダーシップやチャレンジ精神や責任感や観察力や折れない心などが重要だと思う。特に折れない心が非常に重要なものである。どんな悪状況に陥っても諦めず、次の仕事に進むことが重要だ。または、社長であれば、いろんなことを知らないといけない。総合政策学科には幅広い分野の知識を学べるので、僕は総合政策学科に選んだ。総合政策学科通して、経営と経済学の知識をメインに勉強するつもりだ。経営学は会社の運営に関する学問である。それは会社を立ち上げる基礎だ。それがなければ、会社の運営がうまくいけないだろう。または、経済学についても関心がある。一年生のとき総合政策Bを学んで、経済学は面白いと思って、続いて勉強する考えもあった。

具体的にどんな会社を立ち上げることはまだ決まってないので、総合政策学科で様々な分野の知識を勉強して、将来やりたい仕事を探す。もしかしたら、経営学と経済学と全く関係ない仕事をやるかもしれない。僕は旅行に興味深いから、旅行会社を作っても面白そうだ。去年の冬るとき、僕は京都の天橋立へ旅行に行ったんだけど、その時期旅行に行く人は私と友人2人しかいない。雪にまみれる天橋立の景色はとてもきれいでした。しかも、旅行にかかるお金はびっくりするほど少ない。天橋立の展望台と遊園地へ行ったけど、僕たち2人しかいなかったが楽しく遊べる場所でした。そんなに楽しく遊べる場所なのに、旅行に行く人がいなかった。もし、僕は旅行会社を作るなら、こんなところを世の中の人々に旅行されることができるかもしれない。特徴がある会社は世の中の人々に覚えやすいと考えてる。もし、本当に会社を作るならば、このように面白くて、安い穴場を仕事を中心にしたい。その前に自分で現場の状況を確認して、または市場調査もしなければならぬ。

人が少ないところは地域活性化していないところだと言える。そういう景色がきれいだけど、人が少ない地域は地域活性化していない。地域活性化していないほど、観光に来る人々が少ないだろう。逆に、人が来ないから、地域活性化が進まないとも言えるだろう。そういう綺麗な景色を持つのに、利用できないのがもったいないと思う。実際に観光に来て、様々な不便があつて、周りの人たちに紹介しがたいと思う。こういう悪循環は

続けると地域が発展しにくいはずだ。もし、そういうところを開発して、観光地として発展できれば、地域活性化にもいい影響を與えられるのだろう。逆に考えると、地域活性化できたら、いい観光地になれるかもしれないだろう。では、大學で地域活性化についてを研究すれば、自分の考えてる會社にも役に立てるはずだ。最初この地域を観光地にできる會社は後で観光客にさせる會社と違うから、もし自分はそういう観光地作りができれば、自分の會社に大きなメリットがあると思う。そういう考えを含めて、いまは大學で地域活性化に関することを學びたくなってきた。

対話相手

話す相手は同じ総合政策学部の総合政策学科の二年生である。なぜ彼を選んだのか。彼は同学年の留学生の中にトップランクを取ってるとも優秀な学生である。彼の知識面がとても広くて、特に経済学を勉強する志を持ち、自分の地域活性化に少し関連ある。または、関係がとてもよく、家も近くて話しやすいからだ。彼は他人にアドバイスすることが好きで、常に新たな発想がある。とても頼りがいのある人なので、彼と話したらいいことを教えてもらえると思う。

対話結果

彼と地域活性化についてを繰り返して話した。地域活性化が達成したら、どのような変化が起きることが聞かれた。答えとして、観光地のメリットや地域の発展や社会影響などを出した。または、将来自分が作りたい会社への影響についても話した。一つ目の観光地のメリットは、就職先を増やし、外来人口が増える。地域の人口数を増加できる。地域の財政問題も解決できる。さらに、僕のが作りたい会社にも利益が上がる効果がある。二つ目の地域の発展は便利な交通が設置され、地域の商売も繁盛させることができる。地域の原住民に対しても豊かな生活を送る。三つ目の社会影響は原住民が地域への誇り感を生み出す。地域の知名度も向上される。僕はどうしたら地域活性化できるのかと聞いた。彼はまず、発展モデルを立て、共通のアプローチを明らかにして、発展した地域の経験を手本として地域発展に役立つ。そして、自分の地域の特徴に合わせるプランを設計すると答えた。そして、二人ともに地域活性化の共通アプローチについてを議論した。各地域の状況はそれぞれに違って、共用できるプランを作る。まずはインフラの整備を整える。交通施設が不便であれば、顧客を集めるのが難しいことである。顧客が多くほど、民宿やホテルにも発展できるはずだ。その前に最も重要なのは観光地の開発である。観光地の開発がなければ、顧客が来る理由がないから、何も発展できないだ。さらに、地域から、新たなショッピングセンターの招致。観光業だけではなく、商業にも発展できる。観光業と商業の相乗効果を目指す。多くの顧客を集めるために、宣伝を行う必要がある。宣伝により、

地域の個性を世の中に披露して、地域の知名度を向上させる。前提として、地方政府の財政投入は必要不可欠である。政府に提言し、財政を改めて整えて、優先度が低い経費を削減し、以上の開発に投入するべきだ。各地域の特徴や地域文化などに合わせる格別な提案も必要である。例えば、山口県の猫島という実例がある。当地の民俗文化は猫を大漁の象徴として大切にしているため、猫の数が増えて、大量なネコ好きが訪ねる。他の地域も自分の民俗文化を生かし、特別な体験をお客さんに提供したら、地域文化の発展にも役に立てるし、地域活性化にも繋がる。

結論

したがって、彼と話して様々な考え方が勉強になった。地域活性化の問題は地域により、それぞれに違って、解決するために、当地の状況と合わせて改めて考えるべきだ。または、政府からの支援も必要不可欠なものとなっている。地域にはいいことかもしれないけど、僕が作りたい会社に対しては、利益発生できるかどうかはまだ確認できない。様々な問題は山のように積み上げる。この総合政策学部で地域活性化についてのことを研究したい。

授業感想

この授業を受けて、様々なことを勉強になった。みんなのレポートを読んでそれぞれのことが知った。また自分が書いたレポートの不足点を理解した。ただし、何回でも同じ人たちからこのレポートの意見をもらうのがよくないと思う。なぜかという、最初るときこのレポートを見て、不足点を教えてもらって、自分がその点をやり直したら、そのあともらった意見は少なくなった。しかも、無理やりにこのレポートの意見を言う気がする。したがって、今度またやり直すことが難しく実感した。できれば、クラスのメンバーを交換して、たくさんの人から違う意見をもらいたい。

まちづくりによる過疎地域活性化

楊晨敏

動機文

日本では、産業構造の変化に伴い都市部への人口が集中し、特に高度経済成長の過程では三大都市圏への大規模な人口移動が発生した。その逆に、人口が著しい減少する地域や限界集落が多く現れて、過疎地域と言われる。今回の研究テーマは地方産業とその地域の建物の発展を通して、どうやって過疎地域の経済力や人々の意欲を向上させたり、人口を維持したり、増やしたりすることができるかについて研究したいと思う。

現在、日本の地域状況は都市部、都市と農村の中間地域、過疎地域三つに分かれている。都市部では、人口が多く経済活動は活発だが、過疎地では、人口が大幅に減少し、経済が悪化と考えられ、経済活動や雇用機会は都市部への集中が進んでいる。その結果、雇用の場の不足と若者が都市部への流出などがあり、高齢化などの社会問題が起きてしまう。一方、自分の国・中国でも沿岸部と内陸部の経済格差が大変大きく、内陸部の貧しい地域では人々が劣悪な環境で生活している。沿岸部の経済が成長している都市部への憧れる人々が多くあり、都市部への移住とともに、貧しい地域が過疎化になってしまふ。

このような状況に歯止めをかけたいなら、何とかしなければならぬ。今年、都市政策学科に入って、都市計画について学ぶことができる。興味があるまちづくりを通して、日本の地域過疎化問題を食い止めたいと思う。そのまちづくりとは持続可能性があるまちを作り出し、衰退した地域の復興を目指し、都市開発あるいは地域社会の活性化などで使われている。さらに良い生活が送られるように、ハード・ソフト両面から改善を図ろうとする。

今回これを研究テーマとして選んだ理由は、現在毎日大阪から三田まで学校に通っている。電車から降りて、何とか寂しいという気持ちが浮かべきた。学校に通う学生以外には現地に住んでいる人が少ないし、駅の近くはほぼ何もない。三田は今地域過疎化が深刻な問題になっていることに気付いた。だから、自分の力で、ほぼ毎日に来るこの地域の経済を成長させて、もっと豊かになり、人々がここに住みたくなるように何か貢献をしたいと思う。また、研究テーマを探るとき、インターネットでいろいろな資料を読んだ。例えば、日本の過疎地域における人口減少率は、昭和35年～昭和45年には10%程度と著しかったが、その後鈍化し、昭和50年～昭和55年には2.2%にまで改善された。しかし、昭和60年～平成2年以降に人口減少率は再び増大し、平成17年～平成22年には6.9%となっている。現在では大きな社会問題になっている。都市政策学科の学生として、もし自分が学んだ知識は社会問題を解決するには役に立つなら、すごく嬉しいと思う。現地の資源を活用し、専門的な知識で街を発展する。人々が地方に帰りたくな

るように発展して、三田をモデルとして、最初の日本全体的な過疎地域問題を食い止めるという目標に向かって努力していきたい。

対話相手について

自分の研究テーマについて会話する相手は、同じ学科の同級生を選んだ。なぜかというのと、同じ学科だし、彼の研究テーマと関連する所もある。彼は「人工知能で都市問題を解決できる可能性」について研究している。そして、彼は今「都市計画原理」という本を読んでいる。目次に目を通して、現在の都市問題および都市計画について、詳しく書かれている。もし会話をしたら、共通する言葉が多いと思う。また、同じ中国人だから、母語でお互いの意見をちゃんと述べられるし、話せる時間も多いため彼を選んだ。

対話結果

木曜日の授業後 Aさんと学校のコモンズで私の研究テーマについて一時間ぐらい対話をした。まず、彼にレポートの全体を読ませて、対話をし始めた。

最初は「過疎地域問題を解決するには、まちの建物や構造を発展させることが足りない」と言われた。彼の考えは地域過疎問題を解決にはまちの建物を変えるだけが解決できない。「その地域の地方産業を発展させることが一番大事である。もし、本当に過疎地域問題を食い止めたいなら、地方産業を創造する上で、まちの建物を変化する両方が不可欠である」と彼が言った。確かに、彼に言われると、まちの建物だけ変化することはちょっと偏ると思う。地方産業を発展させ、工場や企業が増えるとともに、経済力が強くなって、地域に戻ってくるあるいは就職をしに来る人が多くなれると思う。まちづくりとは、建物を発展させることに限らなくて、持続可能性があるまちを作り出すという定義もある。まちの建物を変化するより持続可能な発展がもっと重要かもしれない。また、動機の部分は「自分が住んでいる大阪と毎日通う三田の比較を加えれば、過疎地域問題と自分の繋がりがもっと強く感じられる」とアドバイスしてくれた。一番印象に残ったことは、「人口は何パーセントを減少するのは過疎地域と定義するか」と質問した時、答えられなくて、「過疎地域の定義も分からないのに、なぜ三田が過疎地域と判断できるか」と言われた。確認必要があるから、一緒に過疎地域の定義を探し、45年の間、人口減少は33パーセントを超えると、過疎地域と認められる。レポートの中に自分の考えだけではなくて、三田の現状や現地の資源について、もっと詳しく書く必要がある。そして、4段落のデータはあるかどうかについて議論した。彼の意見は動機にならないから、書かなくても大丈夫である。しかし、私はそれに対する反対な意見を持っている。確かに動機と直接関係がないが、データを通して、研究する価値が表すことができると思う。最後は彼に「中国の現状部分は結論だけでは納得できないから、具体的な例と自分があったことを加えて書いたほうがいい」と言われた。授業で先生とク

クラスメートになぜ私がこの過疎地域問題を解決する必要があるか、といつも質問をしてくれた。動機として、自分と関連があれば、相手にもっとわかりやすいと思う。例えば、中国は「春運」という言葉がある。それは毎年春節の前、自分の実家に帰る人が多くて、電車のチケットが足りないということである。あの人たちの実家は経済が発展していないし、就職機会もあまりないから、その結果人々が都市部に行って仕事をする。いろいろな地域が過疎化になって、悪循環に落ちてしまう。次にレポートを書く直す時、自分の経験や中国であったことなどを加えて書く。

結論

Aさんと対話する結果、自分が足りない部分を見つけた。いろいろな役に立つ意見をもらった。そのまちづくりに対する定義はもっと広くする必要があると思う。建物の変化だけではなくて、地方産業の発展させる面もまちづくりの中に加えて考える。今の時点で、研究したいのは、建物と地方産業の発展を通して、過疎地域の経済力や人々の意欲を向上させて、人口を増やすことである。その理由は、今毎日大学に通うために、三田までに来て、三田が過疎化をしていることを気付いた。自分の大学が好きで、学園の中の環境も雰囲気もすごくいいと思うが、学校から出ると、周り何もなくて、ずいぶん差がある。友達と遊んでも、ほぼ大阪や三宮へ行くから、すごく不便である。そのような地域をもっと豊かにさせたい気持ちが強い。もちろん過疎地域活性化を研究テーマに選んだ理由も自分の都市政策学科に関係がある。ゼミを選べられることと、自分が興味のあることと言ったら、過疎地域問題を選んだ。これから、都市政策学科に入って、専門的な知識で過疎問題を解決する必要があると思う。

感想

春学期はずっと研究テーマの動機について話した。自分がなぜそれを研究したいのか、自分とのつながりは何かなどの問題はなかなか答えにくい。毎回先生とクラスメートとの交流のおかげで、自分の不足な点を見つけて、その上で書き直すことができた。研究テーマに対する動機はもちろん必要だと思うが、ずっと一つのことに追いつくと、みんなのやる気がなくなってしまう。もし毎回のレポートのテーマを変えれば、みんなの熱情が強くなれると思う。

日本語 III 「日本人同士の間にかかる差別」

① 世の中には偏見や差別は日常的に存在する

世の中には様々な人が一緒に勉強したり、働いたりしながら共存していく。この人たちは全て同じグループに所属しているわけではなく、様々な特徴があり違う持ち味を持ちながらそれぞれ異なった生活を送っている。しかし人と人の中に存在する違いから時々偏見が生み出され、人や団体の暮らしが複雑化されていく。ウィキペディアは偏見についてこのように定義する「偏見とは偏った見方のことである。差別と密接な関係を持つ」。また、アメリカの心理学者ゴードン・オールポートは「偏見とは十分な根拠も無しに他人を悪く考えること」と言った。

ゴードン・オールポートが断言した通り、偏見は時には差別を齎す原因の一つである。しかし、差別というのは何だろうか。私の経験の上の理解から、定義してみたいと思う。差別には様々な種類が存在するが、最も気になるのは他人の見た目とアクセント（またはイントネーション）を用いて、人をからかったり、特別に扱いしたりすることである。例えば昔のイタリアでは農業しかなかった南部から就職するために北部に移っていた人たちが方言の鉛のため、よく馬鹿にされたりしていた。このことは周りを見てみると日本にもある。例えば「ダサイ」という言葉は「ダメ埼玉」から生まれ、元々東京の人が田舎だった「埼玉」の人を馬鹿にするための言葉だった。

② 差別や偏見は日本にもある

団体に対する偏見の1つの例としては、私が日本でよく見る「入れ墨」における偏見について語りたい。日本の銭湯で「入れ墨禁止」という看板を見るのは珍しくない。しかしタトゥーが禁じられていない先頭にも（刺青が入っている人）入ったら、お風呂に上がった日本人がまず沈黙に陥り、気まづくなり、その後風呂から去る。「入れ墨があるからきっと悪い人だ」という偏見をもとにその行動をするから。

少し日本の文化を遡ると、昔の日本で活用していた悪意組織、いわゆる「ヤクザ」の人がとある組に所属しているシンボルとして入れ墨を身に付けていた習慣があったようで、日本人は入れ墨がある人を見次第恐怖を感じていたらしい。「ヤクザ」のその習慣は現代まで保たれており、情報革命を過ごしている今日にもタトゥーは忌み嫌われているわけである。しかし2017年になった今日は、グローバル化の中で「ヤクザ」ではなくてもただ流行で入れ墨を入れる人が多くなりつつあるとしても、「タトゥー ⇒ 悪い人」のステレオタイプがまだ生き残っている。ゆえに外国人であろうが、日本人であろうが、入れ墨が見える状態銭湯や温泉に入ると国籍を問わず偏見を持たれることになる。

他の差別の例としては上記に書いた「ダサイ」の話もあるだろう。そして私は特に気になっているのはまさにそのような言語が関わっている差別である。なぜかという、昔のイタリアには良く北部と南部の間に差別があった。イタリア語で話すとき、かなり標準化してきた州にも方言の鉛がまだ残っておりそれを（北部と南部お互いに）差別の理由となっていた。このようなことは日本でもあるのだろうか。

私は日本人ではないため、良くわからない。しかし、例えば関西に住んだら関西弁しか聞こえないし、関西人が東京弁を聞くと「なんか気持ち悪い」とか「イライラする」とかを言ったりする。よく考えると「関

西人」という言葉が存在する時点で何かがあるかもしれないということの現れだと思う。

私が感じている中、日本では地域意識は国意識より強く、例えば関西の場合日本人である前に、関西人は「関西人」である。この凄く強い帰属感は日本人同士中でも差別を生むのではないかと思う。

確かに日本を国として、また日本語を言語として考えてみると、日本は「差別」を基準に作られた国であることが分かる。出身地、地位、大学名などは日本人にとって非常に大切にされていることだし、例えば「田舎」生まれの人は馬鹿にされないように出身地を隠し、自分の方言を「直そうとする」という話を聞くのはそう珍しくはないと思う。例えば今年にある授業の講師は「関西に来たとき恥ずかしすぎて、自分が東京の人であることがばれないように2年間丁寧語で話した」という話を語ってくれた。

③ 標準語が決まれば日本人同士の偏見や差別が消えるかもしれない

日本語には標準語がない。この話を初めて聞いたのは去年の春学期の言語学概念の授業だった。その時は確かにかなり驚いた。そしてその時から私の日本語へのアプローチが変わり、日本人を違う目で眺めるようになり、そして頭の中で1つの考えが浮かび上がった。

日本人同士に偏見や差別が生まれる一つの原因としては、日本の中で一つの纏まった「言語」がないからではないかと思うようになった。確かに日本のどの地域へ行っても、同じ日本語を話す人は1人もいない。地域により、その場所の特別な方言があり、例えば関西には関西弁、東京には東京弁など。

したがって、日本全体では標準語が決まり、全ての地域を（あたり前なことだが、方言を保護しながら）標準化すると日本人同士の差別を止めることができるのではないかと思っていた。日本人は同じ決まった言語を話すようになったら自分の話している言葉や出身地を気にすることはなくなるだろう。

しかし一体どの方言を標準語にすればいいか。それに対し私には分かるはずがない。適切な知識を持っている人でも以前からずっと議論しているなら、私は当然何も言えない。強いて言えば、NHKはかなり前から放送の時に東京弁を基準にしているが、テレビを見ると確かに関西弁も凄く扱われているようだ。

④ 誰かと話す必要がある

日本における差別や偏見について興味を持っているがゆえに、私は関西学院大学で務めているS先生と一緒に話をしようと思っている。日本語標準語の概念に関する講義を開いているし、非常に深い知識を持っているため、私にきっと良いアドバイスをくれるだろうと思っている。また、S先生の考え方は私と基本的に異なっているため面白い話が必ず出ると思っている。

⑤ 標準語に関する意見の違いにぶつかる

S先生に会えば、まず自分の知識が間違っていないのかということについて（日本では確かに標準語は正式的に定められていない等）しばらくの時間をかけ、議論した。

その後、私は偏見や差別の前提について語り始めた。そして最後に、標準語に関する考え方を発表した。その時に、S先生はびっくりするほどの答えを投げてきた。

ある程度すべての日本人は標準語として東京弁であることを信じている。なぜかというと、NHKは放送の際に東京弁を全国で東京弁を基準にしたがゆえに、人々は徐々に「東京弁は標準語」だということを認識するようになった。そこで私が今まで立てた思考が窓のように割れてしまった。

日本人は標準語が存在するという事に信じ込んでいるのなら、本当に標準語を決めても何も変わらないだろう。日本人同士の差別問題は言語的な対策で解決する問題ではないということが分かった。私の思っていたことは間違っていたので、自分の思考を整理する必要を感じるようになった。

その後、標準語を定めることは本当に必要なのかということについても議論してみた。S先生は日本の最も魅力的なところはまさに様々な違う地域と違う方言が共存することだと断言した。また、私の考え方と違い、日本の色々な文化や方言があるのは素晴らしいだということを日本人が理解すれば、「異文化」を認めたことで考え方が広がり、偏見や差別がなくなりつつあるのではないかという意見も出てきた。

確かに私の「標準化」に対する考え方は非移民における考え方に似ている。例えば標準語を日本人と方言は外国人だとすれば、「外国人がダメで皆日本人の方がいい」という考え方は非常に危ないだろう。

S先生と話しをし、私は考え方を改めることにした。答えはすぐに出るわけではないのだが、一つのことでは自分の頭の中できっちり理解した。標準語が決まっても偏見や差別はなくなるわけがない。それ等が生まれるには様々なややこしい理由があり、無くすためには色々なややこしい対策が必要だろう。標準化の話はなしにしたとはいえ、偏見や差別に関する興味は前より深くなったので、このテーマを変えずに新たな仮説を考え直したいと思う。

⑥ 結果の見直し

S先生と話したらやはり私にとって「差別」とか「偏見」とかは非常に大事であることが改めて分かった。自分が標準語に対し考えていたことは100%合っているわけではないが、そのため研究テーマを前より明確に見えるようになってきた。メディアが作った（もしくは普及した）ステレオタイプを通し、関西と関東の日本人同士差別を研究テーマにしようかと思っている。もちろん今はまだ2年生だし、4年生になるまでは自分の興味や考え方が変わるかもしれないが、とりあえずこのテーマにし前へ進めたいと思う。

⑦ 結論

S先生を対話相手にした理由は考え方や経験の差により、きっと面白い意見が出るだろうということである。この前提からすれば、その決定は正解だろう。しかし、正直なところ、私の考えた仮説はそんな簡単に壊れるとは思わなかったし、少しショックを受けた。議論をしたところで、あることに対し理論的に考えることは何より大事だということが分かった。そして自分の思っていたことがいきなり無くなってきたことにより、私の中で「知りたい」という気持ちが沸いてきた。「なぜ日本人同士に偏見や差別があるのか」。「一体どうやって無くせるのか」。私の頭の中でこの質問は以前より響き渡っているがゆえに、「メディアが関係している日本人に関する偏見の普及」を研究テーマにしようと思っている。なぜかという、媒体が普及した偏見を中心に研究すれば、日本人同士差別が生れる原因、そしてそれによる対策に至る答えを出せるようになるのではないかと考えられる。

⑧ 授業の評価

今年の春学期も終わろうとする。日本語 III のテーマは「研究テーマと私」であり、留学生が関学を卒業するための研究テーマを決める練習のようなものであった。全体的には問題がなく、授業は最後まで流れてきた。「研究テーマと私」というレポートのテーマがかなり難しかったとはいえ、ほとんど悩むことなく書くことが出来たし、面白い思考もできたため、満足している。

この授業に関する文句を強いて言えば、生徒が日本語しか喋らない雰囲気をもっと効率的に作るべきだと思う。関学に入ってからもう一年半が経ったにもかかわらず、まだ授業中では中国語が聞こえたりする。

3 クラス

担当 横野 さゆる

国際貿易の研究について

于 子軒

わたしは国際貿易について研究したいと思う。卒業後に、中国や日本など国にかかわらず、どんな会社は私を雇うのか、もしくは私に合う仕事はどんな仕事なのか、こういう問題について私はよく考えた。日本で留学経験がある私は、将来多分中日両国間の交流とつながる仕事をするだろう。このような考えから私は国際に関する知識を勉強したいと思い、国際政策学科に入った。

地理や天気などの制約により、ある国は何も自給するために、かなり高いコストが生じ、これに比べ、交通技術の進歩やネットの応用などのため、国間の距離が近くなっている今は輸入したほうが得である。21世紀に入り、だんだんグローバル化時代になっている。このような背景で、地域と地域間の貿易がより活発になり、特に自然資源に乏しい一方、技術力を持つ日本は国際的な商業活動を頻繁に行ってきた。中日貿易に関する仕事は中日両国間の交流とつながる仕事に大きな割合を占め、もし今国際貿易に関する知識を勉強すれば、将来の職場で役に立つかもしれないと考える。それに国際的な商業活動があれば、人々は最先進な製品や端境期に好きな食べ物などを手に入れることができる。国際貿易は人々の生活の質を上げることを実感し、国際貿易に興味が生じた。最後、去年の日本経済論という小池洋次先生の授業で経済に関する知識は私たちの日常生活との関連性が高く、社会人にとって知るべき知識の一つとして備える必要があると聞き、履修した経済に関する授業を通し、世の中すべてを費用と便益に還元するという経済的な考え方があれば、未来の人生に多くの選択肢を直面する時、迷いにくいという点も私の目を引いた。以上の理由で今から国際貿易に関する知識を勉強したいと考える。

私は今年に両国間の貿易を影響するファクターについて具体的に研究し、さらに、この視点から中日貿易の現状と問題点を簡単に考察してみたいと考える。同じファクターでも、領域や場所などによって、状況が違い、それを解決するため、経済学だけではなく、他の学問にもある程度に知る必要がある。地理学の勉強から、ある国でもし輸出入が低下している場合、地理学的に考えると、必ず取引先との「距離」が遠いからだと言うことができる。ここの「距離」は「実距離」だけではなく、他にかかった時間という「時間距離」とかかったコストという「費用距離」を総合的に考えなければならない。もし両国間の「距離」が遠いなら、貿易の発展にもなかなか進められない。国際発展政策の授業である国の政策がその国の経済にいかにか大きな影響を与えることを知った。両国それぞれの政策の差が大きく、矛盾が続出したら、お互いの貿易活動も行いにくい。学というものはそもそも物事に対する見方であり、以上の二つ学科から学んだ知識は、完全に政策の矛盾による「距離」が遠くなったというように解読できると考える。経済的な考え方を簡単に見ると、コストの上昇および需要の減少により、利益が下がり、もしくは赤字さえ出たら、商売が続くわけがない。これだけを知るのには不十分で、少なくともなにがなぜ貿易に悪い影響を与

えるのかについて考察して行きたいと考える。

今年は多くの国際貿易に関する授業を履修したので、国際貿易に影響するファクターについて様々な見方から考察し、授業の進展とともに学ぶ知識と合わせ、レポートを書きたいと思う。

対話相手

国際貿易を研究する動機については、相当な割合が将来の就職のためなので、私は日本企業に何十年で勤めた経験があり、しかも国際貿易とある程度につながりがあるお父さんの高校時代のクラスメイト周さんと対話するつもりだと思う。対話内容について、中日貿易を中心とする対話で、日本の会社が雇う外国人に対し、どの方面を重視するのか、他の国に比べて中国人の優位な点は何なのか、中日貿易に一番影響を与えるのは何なのか、どう改善すべきか、このような疑問を持ちながら、対話を進めたいと考える。

対話結果

私は五月の初めにお父さんの高校時代のクラスメイト周さんとネットで40分ぐらい対話した。私たちはまず外国人が日本企業で働く現状について話した。日本の会社は外国人を雇う時、重視する点を簡単に分析した。そのあと中日貿易を中心に、なぜ日本の製造業務は中国に移転したのか、中日貿易に一番影響を与える点について探究した。

特に印象に残った部分は、周さんから日本の会社は外国人を雇うとき、日本語能力と専門知識より個人性格と品性のほうが重視することである。これについて最初の時不思議な考え方だと思い、経営情報論の授業でキリンの商品開発部長佐藤さんに関するビデオに「いい人からいい商品を生み出す」という話を聞いたあと、少なくともわかるようになった。一緒に気持ちよく働ける人と、そうでない人を雇った時の職場の空気は大きく変わる。会社にとって、個人の能力やはり微小であり、チーム全体から見ると、効率的に仕事をするため、技術やスキルを持ち一方人格が悪い人より、性格と品性が良い人を雇いたほうが良いと考える。周さんは様々な国から外国人社員の中に中国人の優位な点について、大きく安定しやすい中国市場と貿易活動を行うため、中国人社員に対する需要が大きいということを私に伝えた。

中国に関する国際貿易のことをいう時、論じなければならないのはやはり製造業だと思う。日本のみならず、「made in china」を付けた商品は今全世界に広がっている。それに反し、「made in japan」を付けた商品はそんなに多くないと感じられる。日本国内の製造業は前世紀からずっと減り、段々サービス業に転換してきた。なんで日本企業の製造業務は中国に移転するのか、その原因について周さんに聞いた。企業の活動の流れは、大体最初の企画設計から組立加工、そしてマーケティングまでに進む場合が多い。この過程に最も付加価値の高い段階は、企画設計とマーケティングである。それに反する組立加工は、付加価値が低く、しかもかなり手間がかかるので、このような誰でもできる業務を低コストの

中国に移転し、付加価値が高い部門だけを特化し、企業の収益を最大化することができる。これによる全体コストの下降は、国際貿易の活発に良い影響を与えると考える。

中日貿易に一番影響を与える点について、周さんは政治が国際貿易に左右することを私に伝えた。特に中国の場合は、政治が商売の領域を問わず、簡単に売り手のコストと買い手の需要に強く影響を与えられる。

結論

周さんと対話したあと、自分が国際貿易についての研究を変わず、これからも続きたいと思った。

周さんは「長く続ける商売は、買い手と売り手に対する win-win という関係がある」と言った。国々は生産整備、科学技術や地理位置などにより、生産能力と市場供給がある程度に差があるため、すでにあった商品は供給が需要に追いつかないこともしくは供給過剰のような問題がある。国際貿易を通じれば、国内に欠乏した商品の市場供給量を増えることができるだけでなく、生産過剰の商品も新たな売り口があるため、販路が広がる。買い手は入手したい商品を安く買え、売り手は生産過剰な商品を売れ、両方とも便益を得ると思い、自分がもし将来国際貿易に関する仕事をすれば、地域間の人々の生活品質を上げ、彼らに幸福感をもたらすかもしれないということを実感した。

そして、前日本の製造業務は中国に移転することから、ある国は労働力があるが資本がなく、ある国は資本があるが土地がなく、ある国は土地が広いが農業技術がないことがわかる。もし国際貿易がないと、これらの国の生産規模と生産力は不利な点に制約され、生産ファクターが十分に利用できず、世界全体の生産コストが高く、世界経済の発展にダメージを与えると考える。国際貿易は国にとって必要であることを知り、将来にはもっと活発になる国際貿易は仕事とつながる可能性が高いと思い、今研究していたものが仕事に役に立つことを信じる。

最後、対話前に書いた経済的な考え方について、経済学は世の中すべてを費用と便益に還元する学問であり、経済学を勉強したら、世の中すべてを費用と便益に還元するという物事に対する見方を身につける。このような見方で決めにくいことを直面する時、自分にとって価値が最も高いことにすれば良いため、どんなことに会っても迷わず、必ず早めに決められ、実行する。若者は迷いやすいものであり、迷いやすい私がこのような物事に対する見方を身につける必要があると考える。もちろん、このような考え方は万能ではないことを知っているが、人生の道で歩く時、一步ごとに正しくするわけがなく、迷って時間を無駄するより、早めに決めてするほうが良いと思う。

感想

今年の春学期は、「大学で研究したいこと」というテーマで 3600 字の文章を書いた。自分がどんなゼミに入りたいことを考える時、まず自分が研究したいことを知るの重要だと思う。この授業を通じて、自分が研究したいことの動機を繰り返して考えて、自分自身

のニーズと合わせて、決めたものを研究する価値を深く考察した。このような動機について、深く分析する経験は、本当に自分にとってやるべきなことをできるために、意義が大きいと思う。

大学で研究したいこと

王帥

1 初めに

1946年初めて本格的な computer「ENIAC」誕生してから今まで、すでに71年を経た。PC（コンピュータ）の誕生は、我々の生活、仕事、娯楽などに新なる可能性を与えてくれた、特にデータ入力や計算などは、現在多くの場合はPCに任せることが多い。最近数年、多様化した入力方式によって、過去のキーボード入力から、音声入力、手書き入力など、実際の場面によって、方法を選ぶことが可能になる。また、インターネット及びデータ通信の発展で、高速、大容量のインターネット生活が可能になった。さらに、スマートフォンやノートパソコンの軽量化になることで、場所に問わず、どこでも仕事、学習、娯楽ができるようになった。昔のように紙と鉛筆の時代と違って、多くの資料、材料が触れ合うことができない「データ」になりつつある。このような時代は、僕は「デジタル時代」と言う。

2 デジタルは何？

ここで言いたいのは、コンピュータに関わるデジタルのことである。今日のコンピュータの主流であるデジタルコンピュータでは、0と1だけからなる2進数を物理的な表現形式（電圧の高・低など）として用いるので、デジタルは0と1から成るという説明がよくなされる。

例えば、伝統的な腕時計は機械、つまり物理的な技術を用いて、出来上がったものだが



図 1 デジタルウォッチと伝統的な腕時計

デジタルウォッチ（スマートウォッチ）とは、コンピュータのようにすべては0と1で構成されている。同じ時間を示すものとはいえ、その原理は大きく違っている。

また、「カメラ」も同じく、従来のカメラは、物理と化学の原理で、景色が写真ファイルに反応することだったが。最近数十年では、「デジタルカメラ」ということで、景色は、0と1というコンピュータの表現形式で、メモリ上で保存する。

まだいろいろあるが、僕に対して、デジタルというものはこんなイメージであると僕は思っている。

3 何を研究したいか

研究テーマは、今まで何回も変わった、最初の「教育におけるデジタル化について」から、「ノートは紙からデジタルに変わる」、「メディアマーケティング」まで、数回変わったが、今までもはっきりしていないといえる。ただし、全てのテーマは一つの共通点があり、それは「デジタル」ということ自体が深くかかわっている。そのため、はっきりしていない限り、テーマが少し広がっていて、「デジタル時代は我々に対する影響」ということについて、研究したいと思う。

もちろん理由はそれだけではなく、我々に対して、感じにくいかもしれないが、これまでの生活で、デジタルというものはどこでもあるため、誰でもその影響を受けている、しかも避けられないことである。しかし、僕も真剣に、今の時代と昔と比べて、何が変わったかということは、考えたことがなく。しかも非常に良いテーマであること僕が感じているから、このテーマに従って、何かが明らかにすることができればと幸いである。

もう一つ大きなきっかけとしては、去年、中国ネット上で非常に大きな事件が起こってしまった。それは「魏則西事件」という。

<http://heqinglian.net/2016/05/28/wei-zexi-event/>

魏という人は癌を患って、治療情報と病院を探すとき、中国の検索独占サイト「Baidu」で検索し、そのランク1は一つ「詐欺病院」で、そしてこの病院で治療を受け、適切な治療を受けずに、大金をかけた末、癌に命を奪った。

実は Baidu の広告問題は多くの人知っているが、この度、利益のために命に関わることさえ関わらず、詐欺情報が検索結果の最も目立つ所に置き、彼以外、すでに数え切れない人が影響されたであろう。

影響として非常に大きかったが、中国では9割以上の人Baiduしか使っていないから、しばらくの間後、今まだ同じことが繰り返し始まった。検索システムを従わず、お金さえ出せば、詐欺情報でもいい、広告でもいい、ランキング上位に置くことになっている

話合いのように、我々大学生さえ騙されるなら、知識がない人々はさらに騙されるであろう。

そしてお金の損失は大したことであるが、命の損なら、一度失ってしまったら、二度と戻らず、残念な結果になる。

しかし、こんな「インターネットの入口」といえる Baidu は、利益のために、道徳さえ捨てることができ。大企業に対して、一般人の僕らの力は僅かである。

それでも、何かしなければならぬ、そしてからなず何かができると信じて、まずこの最初のなもの、つまり「我々に対する影響」を明らかにすれば何とかできると思う。

4 対話相手について

呉さん、友達の一りで、同じ学科である、僕と一緒に取る授業が多く。私より物事に対して考えが全面的で、良いアイデアが出ることが多く僕が感じている。さらに物事に対して、僕が見えないところが見える。大事なものは、住んでいるところが僕と近いので、話合いがしやすく、気軽に話すことができる。学生さんだが、良い相手になれると僕が思っている思う。

5 対話の概要

デジタル化生活はどのような生活かについて、説明せずに彼の考えを聞いてみた。

「例えば僕たち留学生なら、過去、海外留学生に対して、留学ということは、家族と長

い間で会えることができないと同じことである、しかし今は違いである、電話、ビデオで、気軽につながるができる。そして友達同士でも、インターネットを通してつながりが簡単である。しかし、インターネットばかりで、実に合うことが少なくなっていくって、逆に友達との付き合いが微妙な感じがする」

次に、彼とデジタル時代で更なる輝く企業について話合ってみた。

もちろんみんなしているような企業がたくさんあったが、一つ興味深い企業があった。

それは「Baidu」のである。

中国では一番大手な検索エンジンとして、九割以上の人がインターネットを使うならからならず「Baidu」を使う。こんな人々の検索結果を左右する能力があって。非常に怖いことになってしまう。

彼と僕誰でも「Baidu」での検索結果に騙されて、詐欺ネサイトに入って、損があったことがある。しかしなんとなく、二人とも少しだけの損しか出なく、そして年齢と経験の成長につれて、騙されにくくなってしまった。

最後、我々の学習方式について話した。

「昔は本を読んで、学校で先生の板書を見て、練習問題をやるなど、作文を書くとき、勉強した内容から何かを書くことしかできないなどだったが、今ではパワーポイントを見て、文字だけではなく、映像なども見ながら、学習して、手で書くことも少なくなっていると感じている、そしてレポートを書くとき、インターネットを通して、資料、文献なども検索することになった。」

ここで、また「Baidu」の話に戻ってしまって、現在の学生は、レポート、論文などを書くとき、まず検索エンジンで何かを検索してみるからにしている。

さらに、問題がある時、何か知りたい時も同じく、先に検索してみる。実は悪いことではないが、問題なのは「検索結果は必ず正しいとは言えない」のである。

一体どうすれば騙されないのか、我らは実にわからない。

6 対話の見通し

6.1 企業に対する影響

デジタル時代では、光がある一方で、影もないとは言えない。デジタル時代では、ビッグデータ時代、情報化社会も言える。情報が得られやすい一方、人々に対して、特に若者の我々に対して、学習能力が退化すると感じている。また、資源、情報の共有であることで、「創造性」がなくなりつつある。

人間のみならず、企業、産業にも大きく影響を与えている。この時代で更なる成長した企業もあるし、時代に追いつけられず、地獄に沈んだ企業も多くある。

時代に応じて、時代にふさわしい産業と現在の事業から新なる事業まで拡大すること「創造」が非常に重要である。調べたところ、富士ゼロックスもプリンター、ファックス、GUIから授業中で紹介したようにデータ分析、人工知能など展開している。考えてば、どんな会社でも、たとえ一瞬ある領域のトップランクに居たとしても、いつか追いつけられるか、領域自体がお終いという恐れがある。ソニー、マイクロソフト、ヤマハなどは、どれでも多領域で事業を展開している。

一方、トップランクに居る企業としても、創造性がなくて、なくなってしまう会社はいくつあげられる。「コダック」もそうであるし、僕が最も残念だと思うアメリカ人がゼロから作られた会社「ワング・ラボラトリーズ」の悲劇も同じ、ワープロ専用機に固執して、汎用的なパーソナルコンピュータに移行しなかったため、当時での超大手会社が一晩でな

くなってしまうといえる。

現在同じような悲劇はまだ繰り返している。五年前まで「NOKIA」「BlackBerry」などはトップレベルの会社だったが、今はどうなっているのであろうか。会社に対してはもちろん、我々に対しても変わらなく、いつまでも学習することだけは、あきらめてはいけないと私は思う。

6.2 我々に対する影響

現在「人工知能」も高速発展している、人工知能、機械、データに替わられる職業が多く、または替わられる恐れがある職業が少なくない。たとえ「弁護士」のような、現在では非常に偉く、プロ的な職業も、危険が感じられなければならない。ゆえに、我々に対して、更なる努力が必要で、危機感も常に感じられなければならない。

一方、こんな時代では、一つの機会ともいえる、Wechat による商売、生放送主、ゲームチームに入るなど、出世の機会は実に増やしたともいえる。問題なのはいかに捕まえるかと僕が思う。

7 まとめ

おおざっぱにいろいろなことを書いたが、このテーマは確かに、どうしてもまとめにくい感じで、すごく広いことである。

しかし、このように少しずつ、様々な面から見れば、必ず何かが明らかにすることができると、僕がそう感じている。

8 授業の感想

そもそも、実は何を研究するのか、まだ決まっていない状態であるが、今学期の授業を通して、少しでも明らかにした、このおかげで、大体ゼミのことも決めていた。途中で数回テーマを変えて、書き直すことがあって、苦勞したが、結果として、なんとなく勉強の大方向を見つけたので、すっきりした気がする。

一学期お疲れ様でした。

スポーツエンターテイメント fixed gear bike の経営

はじめに

スポーツエンターテイメント (sports entertainment) とは、スポーツの形態をとるエンターテイメントの形式で、運動能力の競争より劇的な物語やユーモア、ご覧の通り、面白い要素を強調する意味である。つまり、娯楽のためのスポーツである。そして、私はこれを研究テーマとして研究したい。

このスポーツエンターテイメントを研究することによって今目標としている ピクシー自転車事業の基盤になると強く思っている。

ピクシーはピークシードギアバイク (fixed gear bike) の略であるが、日本では「ピスト」と呼ばれている。後輪のギアが固定されていることが他の自転車とは独立した特徴である。ペダルを前に踏むと前に行き、逆に踏むと逆に行くことができ、自転車との一体感を感じることができる。速さ、美しいデザイン、派手なスタント、好きなようにカスタムする楽しみまで、このような魅力があるピクシーとスポーツエンターテイメントの娯楽のためのスポーツという特定と良い組み合わせだと思う。

きっかけ

私は日本に来る前、韓国に居住しているとき、他の人のように会社を入社して薬品会社で仕事をしていた。入社してからは毎日会社で働いて帰宅をすると、友達と酒を飲んだり、コンピュータゲームに夢中になっていた。そんなつまらない日常が毎日繰り返しになって、人生にあきはじめて、このように生きてはいけないと思った。

それから、私は「新しい場所に移動し、新しい人と会いたい。」という気持ちで日本にワーキングホリデーを申し込むことになった。日本には兄が住んでいるが、兄は私に新しい生活から適応できるように自転車を買ってくれた。

しかし、一般的な自転車とは違う、ピスト自転車を買ってくれたのだ。ピスト自転車に乗り始めて、このピスト自転車と一緒にあちらこちらに旅行に行き、学校に通いながら、同じピスト自転車に乗っていた大切な仲間たちを会ってきた。日本に来てからの5年間は、韓国での生活とは対照的で、毎日が楽しく新しい感じで生活している。私は27年の人生で今が一番光って一番楽しく一番したいことを出合った。そして単に趣味で終わるのではなく、私の仕事に持っていきたいという気持ちがしはじめ、これらのスポーツとのブランドを創作していきたいものである。

そこから、私はこれを研究したいと思うようになり、いろいろなピストブランドの映像を見ることになった。その中で、スペインのバルセロナの「ドスノベンター」という自転

車ブランド広告映像を見たことである。「ドスノベンター」は、2010年10月バルセロナの二人の友人によって設立され、その友人たちは、そこで有名なライダーであった。そこで数年間働いていた経験をもとに、「ドスノベンター」を開発し、今ではピクシーの中で最もホットなブランドになった。彼らは世界の国々に行って現地の人と一緒にピスト自転車に乗る映像を撮っていた。それからドスノベンターの工場でその国で走った印象を考えて、自転車フレームを作り出している。単なる企業のような経営とは違う方式で経営をしていることに印象を受けた。

また、「adidas」「NIKE」「Red Bull」「VANS」などの企業がスポーツエンターテインメントに力をいれている。特にRed Bullがスポーツを映像で撮影してインターネット上に宣伝することに力を入れていた。

最もRed Bullにインスピレーションを受けたことはスポーツの中でも、代表的なスポーツではなく、人によく知られていないようなスポーツをたくさん使用して映像を作っていたことだった。大勢が知っているサッカー、野球だけではなく、エクストリームスポーツや関連不人気スポーツにも対応してくれるRed Bullなどの会社があるためこれらエクストリームスポーツや一般的ではないスポーツ「スケボー、ボブスラッシュ、アイスホッケーなど」に多くのファンを確保していくことが印象だった。

これからは

しかし、スポーツエンターテインメントと言っても幅が広すぎるので、範囲を狭くしながらレポートを完成させたい。だから私は、メディア情報学科で経営や映像と広告などについて集中的に学んでいきたい。そして、学校外では、今現在のピストクルー運営をどのようにしていくか、引き続き研究していきながら、スポーツ専用のカメラを購入して映像に向かっても実力を育てていく予定である。

対話相手

会話相手は今現在、大阪でピストチームと一緒に作ってきた友達「イーさん」を選択した。この友人は、私が1年生の夏休みにピスト自転車のメンバー3人で、9月1日から9月5日まで競輪自転車で大阪から東京行きを挑戦した仲間である。

「イーさん」は立命館大学2年生で、映像学部で勉強をしているため、お互い合う部分が多いと思った。そして会う時間も多かったので会話相手として決めた。とくにいつも精神的に力になる人なので、私にとって影響力が強い人である。

1. 対話概要

いつも金曜日の夜 11 時頃にはチームメンバーとライディングをするが、今回は対話のためにイーさんと二人で自転車に乗って usj に行った。夜 11 時の usj は静かで対話がしやすい場所である。その正門前はローソンコンビニがあり、そこで飲み物を買ってベンチで休憩を取りながら会話が始まった。

2. 対話内容

長い時間を出会ってきたので、私のことをほとんど知っている友達だが、私はこのピックアップ自転車を通じて何かを研究したいと思い、これを発展させて、個人事業の経営にも引き続きいきたいという意味を伝えた。そして、イーさんはピスト自転車について知っている人よりも知らない人が多いので、映像を撮影していくことは、良いことだと述べた。スポーツを映像に盛ることはとても難しく、時間がかかるが、それなりの価値がある部分だと、一緒に自転車に乗りながら映像を撮影してみようという結論が出た。

しかし、「何のための映像を研究しようとするのか」という質問があって、私はもちろん、「私の夢であるスポーツ関連事業をするため」と答えた。その後、「あなたに学校生活で学んでいくべきことは、映像ではなく、経営を学ぶべきではないか」というアドバイスを受けることになった。

確かに経営は事業をしたい私にとって重要な部分である。なぜ映像に拘っていたのか、自分中でよく考えてみた。それは私がメディアは映像という印象が強かったと考えた。メディアは映像だけではなく、幅広い分野であるのに、学科選択をするとき、メディアだから映像を学ぼうという意識が強かったのである。

それからイーさんと難波にある居酒屋に戻ってきて、どのように経営をしたいのか、どのようなアイテムを考えているのかについて空が明るくなるまで話し合った。

3. 対話の感想

対話を通じて再び私の目的に対してもう一度考えられるきっかけになった。影響力が強い人なのでアドバイスを積極的に受けることになった。

もともと経営の重要さはわかっていたが、今の現実ではメディア分野で学んでいるため、当然にメディア分野の映像を専門的知識を得ていきたいと考えていた。最近経営情報論という講義を前半ぐらい聴いてきて、経営にとって情報の重要さを学びながら真剣に講義を聴いていた自分の姿が見えてきた。つまり、最近「経営」をずっと考えたのである。

確かに映像は、私たちが一緒に撮影していくならば映像を作る方法は、自然に能力がある。

しかし、個人事業経営というのは少額の資金ではじめることができないので、失敗をしない部分であり、失敗しないためには、それぐらいの計画と体系的な経営方式について学ぶ

べきである。だから私はこれからのスポーツ事業の経営のテーマとして研究することで目標を定めた。

結論

したがって、結論はスポーツエンターテイメントのいろいろなプロジェクトを考えるためには「映像」よりも「経営」について役立つことを研究することで、メディア情報学科で考えているのは、山田孝子先生のジェミである。実際の経営情報論という授業を聞いていて、授業でも多くのことを学んでいる。

そこに多くの会社の経営方式と実例を見ながら多くの知識を積み重ねていきたい。スポーツエンターテイメントを私の方法でどのようにつくっていくかを基本的に考えながら、それに役立つ学校の授業を参加していきたい。

最初は「経営」より「映像」を考えていたが、レポートを書きながら対話結果によって「映像」よりも「経営」に考え直すようになった。

つまり、経営の範囲内の映像があると考えられている。

だから、研究テーマとしては「ドスノベンタ」や「Red Bull」を見本として「不人気種目を利用した経営」を目指して経営の知識と計画する能力を上げていきたい。そして、来年の春休みには「ドスノベンタ」が作られた、スペインのバルセロナに行く計画を立てている。「ドスノベンタ」の本店や工房を見学しながら、どのような構造で経営しているか、どのような方法で自転車の部品を製造しているかを見て学び、また機会があれば、バルセロナの人とピスト自転車に乗って見たい。休みが多い大学生活を利用して、ヨーロッパに行って、人々にどのような自転車文化があるのか、直接目で見て触れたい。

そして、大学生活でピスト経営のためにできることを試みる。今、考えているのは、ブランド名を決めてブランド名を入れたファッションを作っていくものである。たとえばデザインを直接してTシャツ製作するものである。そして、ピストだけでなく、他のエクストリームスポーツに接したい。

感想

春学期の授業を行いながら、自分の学科にどのような先生の研究があるか、どのような知識が得られるかについて知る機会になったと思う。具体的にどのようなことを元ずくか迷っていたところ、もう一度心かける機会だった。

しかし、ほかの学生さんたちとは少し変わったテーマだとおもっている。だからもっと頑張っていきたいと思う。

そして、中国の方が多いので、それぞれの研究テーマが中国に関連がある内容が多くて中国の文化や状況などを知る機会だと言えるが、もう少し違う国の方の考え方も知りたい

と考えた。

1. はじめに

昔の日本も高度経済成長期には、深刻な環境汚染により自然破壊や公害が問題になった。例えば明治時代の近代化政策とともに始まった大気汚染、さらに1955年からの好景気下では、工業都市の住民に深刻な健康被害が起こり、大気汚染は大きな社会問題へ発展した、1956年に水俣病の発生を公式に発表し。そこから第二水俣病（1964）、四日市喘息（1960～1972）、イタイイタイ病などの日本四大公害病が重視され、今では人々の環境保護に関する意識が強くなって、浄化技術も進歩したおかげで、環境問題も回復してきた。しかし現在中国の環境問題はすでに人の生活に悪影響を与えている。p m 2. 5が原因で、町が煙の中に隠れているような様子とか、呼吸器官の病気などに悩まされる住民が多くて、また水資源の汚染も湖に生活している水生物に影響している。発展途上国として、経済成長が進んでいる中国では、環境問題はたいへん深刻で、重視するべきだと考える。従って私は環境の中に水質問題と人間の健康について研究したいと思う。

2. 現状

中国の環境問題は多くて、人間の健康と一番関連しているのは水資源の事だと考える。中国では「がん症村」と呼ばれる地域がいくつかあり、付近の工場から排出された汚染水により河川や井戸水などが汚染され、住民に多数のガンや白血病が発生し、深刻な問題になっている。近くの川では、魚が死に、それを食べた犬が死ぬといった現象が多発しているという。中国の国内にある「がん症村」は、400カ所以上にのぼる。シンセンタ刊によるとがんによる年間の死亡者数は250万人以上と言われている。今後も上昇傾向も予想され、2020年には死亡者数が300万人を超える可能性があるといわれる。がん症村の死亡率はそれぞれになっているので、明らかな標準がない、しかしがん症村の名前を付けるのは絶対いい加減な話ではないと思う。

現在汚染物排出料金徴収制度や汚染物質排出許可証制度の成立により、汚染物の排出をある程度コントロールできるようになった。2003年以前の規定では、汚染排出許可基準を超過する者に対して超過分を標準費用で徴収、水体を汚染した者を汚水課徴金、課徴金を支払ってから新たに汚染した者を標準費用の2倍、2年連続で排出基準を超過した場合は高額徴収（原語：高標準収費）すると規定されていた。2003年7月1日、「排出課徴金の徴収標準管理方法」が発表さ

れた。新しい方法では次の2点の変更された。①排出汚染物の種類、数量等徴収標準が引き上げられた、②これまでの排出課徴金の20%は環境部門の事業費として使用されていたが、改革後その費用はなくなり、課徴金はすべて環境汚染の抑制専用資金に定められた。このように、排出課徴金制度は2003年の制度改革により、原則として大気汚染及び水質汚濁物質については排出された汚染物の種類と量に比率して徴収されるものとなった。また徴収対象は2003年から畜産業とサービス業が新たに加えられ、幅広くなっている。

3. 研究動機

私の故郷湖北省は湖が多くあって、昔“千湖の省”という美称を持っていた。しかし現在土地開発により湖を埋め立てたり、工場の廃水をそのまま川に流されるなどの原因で湖の数が大幅減らしてきた。家の隣の湖も悪臭がただよい、昔はよくその湖に沿って散歩していたが、今は出来るだけそこを通らないように帰る。

祖父祖母昔も長江のそばに住んでいた、畑もあって、普段食べている魚や野菜などほとんど自分で作ったものであり、あの時の野菜や魚は随分新鮮な記憶今までも覚えている。しかし深刻な水質汚染で「長江の三大水産物」の危機に導く、長江の珍味と言われる“鮡魚”、“河豚魚”、“刀魚”の3つを指す。乱獲により急激に減少し、絶滅の恐れが出た。そして2004年の初旬に世界自然基金会と世界資源研究所が共同で完成した報告書『危険な状態にある河川、ダムと淡水生態系の未来』は、全長6300キロメートルの長江の流域に建設済み、建設中、建設予定のダムは46カ所あり、長江は世界でダム建設が最も多い河川であり、それが生態系に及ぼす影響は深刻であると述べ、大型ダムは水と電力を提供すると同時に多くの生物の淡水生息地や種の消滅をもたらすと警告を発していた。1994年に工事を開始し、2009年に完成した世界最大の“三峡水庫（ダム）”は、当然ながら長江最大のダムだが、同ダムの完成が長江の生態系に及ぼした影響は甚大であった。

2013年に武漢市の飲用水源である府河（ふが）で、大量の魚の死骸が発見されました。調査の結果、化学薬品工場による汚染物質の排出が原因だと明確記載された。乱獲により漁獲量の急激な減少するけれども、その影響はそれほど大きなものではないように思われる。急激な減少を招いた最大に要因は何と言っても長江の水質汚染と生態系の破壊によるものと考えられるのである。

水質の汚染とダム建設により、今はもう人工養殖の魚しか食べれない、自分で魚を釣ることも出来なくなって、人工養殖のモノも記憶の味と全く違うと感じる。

4. 努力の方向

生活環境の保護と健康のために、環境問題と人間の健康についての研究方向を決めた。今学期は環境、都市政策、経済に関する科目を中心として履修している、これからの勉強において、現在の環境問題を解決する方法や、この環境で人間にとって一番良い過ごし方などを研究したいと考える。

話したい人については同じ学科の友達にしたい。彼女も環境問題について研究しているし、住んでいるところも近いので、話しやすいと思う。私たちの研究したい方向は同じ環境問題であるが、二人の考え方や調べたことはきっと同じでない。従って、対話の中から、自分が思いつかないことが見つかるかもしれない。そして、彼女がこの方向を選んだ理由を聞いて、自分との違う観点を引き出せる可能性もある。特に皆の意見から私のきっかけ部分が足りない点について、彼女と話したいと考える。

5. 話し相手との対話

私は王さんと中国の環境現状について簡単に話した。

そして皆から私のきっかけはあまり深刻ではないと言われる、そこで同じ環境問題を研究したい王さんのきっかけをまず聞いた。王さんは中国の大気汚染の問題を解決したいと考えて、その原因は王さんの故郷山西省は経済成長させるために石炭依存して境汚染したが、その住民の生活は豊かになったからだ。そして、彼女の父親もずっと石炭関係の仕事をしていたので、自分たちは石炭のおかげで豊かな生活をもたらしたのに、汚染した都市から逃げるの恥ずかしいと考えて自分たちがやったことは自分たちの手で治すという責任を取りたいと言っている。

自分の文を見て、水資源の汚染は嚴重で人間に対する影響も大きいということがはっきりしているけど、自分とのつながりは若干弱いと感じる。やはりきっかけは自分の生活ともっと繋がる必要がある、これからもう一回きっかけを考え直したいと思う。

王さんの話を聞いて、ふるさとの環境と私一番関連していることを考えて見れば、やはり小さい頃、祖父祖母の家で生活したことだと思う。祖父祖母昔長江のそばに住んでいた、畑もあって、普段食べている魚や野菜などほとんど自分で釣りって、作ったものであり、両親が忙しくて、幼稚園の時代はほとんど祖父祖母と一緒に生活した。しかし、現在経済発展や都市開発により、水資源への汚染も日々嚴重になって、小さい池や湖を埋め立てたり、人口養殖に頼るしかない。私にとって記憶のとかが失い、ことも時代の味も二度と戻れないのは非常に残念なことと考える。

経済発展と環境保護の均衡は、かなり大切という認識を普及する必要があると思う。現在の自然資源は長年の凝縮でできたものであり、潰れるのは一瞬だけの事だと考える。自然の破壊と私たちの生活や健康にも関わり、自分と関係ないではないという認識があれば、知らずのうちに全員自然保護の行動に参加するだろう。一人の力は小さいけど、全員の力は大きい。

将来の仕事と今関連していると、現在勉強している科目は役に立つけど、関連しなくても、興味がある分野のことを勉強するのは絶対無駄ではないと思う。

6. 結論

王さんと話して、新たなきっかけを見つかり、もっと環境についての研究をしなくなってきた。色々な環境問題を自分の手で解決出来るかどうかはわからないけど、この目標を目指して努力するのは現在出来ることと考える。

「自分たちがやったことは自分たちの手で治すという責任を取りたいと思う。」王さんが言う通り、現在の環境を保護改善するのは私たちすべきなことであり、私たち自身、家族及び生活している人間を守る理想を持つべきと考える。

自らの努力だけで大きい目標を達成するのは困難であり、自分の研究結果を他人に伝えるのは可能である。将来の仕事について、真面目に考えた。現在環境の話題が人気であるけど、環境についての業界は想像より厳しいと思う。中国では、環境についての政策はほとんど政府から出す、しかし政府に入るのは公務員の資格を取られなければならない。環境評価についての仕事はレポートを書くばかりで、私にとって全然やりたくない仕事だ。商品開発についても理系の機械や生物化学の方に向けている。従って、私にとってうまく出来る仕事は浄化設備や薬剤の販売だと考える。

少しでも、自分の力を貢献すれば、今の努力は無駄ではないと考えられる。

7. 感想

今学期のやり方と去年と全く違うので、やはり自分だけの考えではなく、話し相手を見つかり、話し合っただけで交流の中から新たな発想が出る可能性が高い。授業中クラスメートの質問やアドバイスも前学期より積極的になって、このやり取りを通して、自分の不足を検討して、文章の内容を書き直す。最初文書に対する不安感もなくなって、普通の気持ちで対応できるようになった。作文が嫌いな私にとっても、やっと日本語書く部分の魅力を少し感じた。

参考文献：

1. 環境再生保全機構,<https://www.erca.go.jp/yobou/taiki/kangaeru/history/01.html>

2017.05.08アクセス

2. どこまで進む！？衝撃の最新中国公害事情

<https://matome.naver.jp/odai/2136491056672154901/2136586167434595503>

2017.05.08アクセス

3. 環境と健康のかかわり

<https://kotobank.jp/word/%E7%92%B0%E5%A2%83%E3%81%A8%E5%81%A5%E5%BA%B7%E3%81%AE%E3%81%8B%E3%81%8B%E3%82%8F%E3%82%8A-794271>

2017.05.08アクセス

4. 中国の環境問題と対策

http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~haisui/journal_j/no_14/environ_chaina.html

2017.05.08アクセス

5. 「中国環境ハンドブック 2007年～2008年」. 蒼蒼社. 2007年

中国都市のゴーストタウン問題を解決する

-----人工知能はどう加える？

総合政策学部 都市政策学科

文双定

はじめに

高校時代、瀋陽の郊外にある自動車教習所に通った。その半年間で周り的高層ビルの工事が全く進んでいなかったことに気がついた。調べた後、このマンションを買う人がおらず、企業の資金のやりくりが崩れてしまって、工事がうまくできなかったことが分かった。ちょうどその間、両親は私のために新しい部屋を買う時期だった。何回でも郊外のマンション群や別荘地に見学した。しかし、その新しく建てられた地域の様子にがっかりした。具体的に言えば、その地域で完全に工事が終わったマンションは見た目がかっこよくて、別荘も立派であったが、それらの住宅地の周りは病院や学校やスーパーマーケットなど公共施設が完全になかった。結局両親でも部屋を買うのを諦めた。何年間に立ったけど、その地域は全国で有名なゴーストタウンの一つの存在であり、全く改善してなかった。これによって、高校時代から都市再生や都市リ・デザインに興味を持つようになった。

この間に「城市规划原理」という本を読んだ。日本語での翻訳は「都市計画原理」である。この本は、都市について、都市発展思想や都市計画や都市区域計画など書いてある。まだ読み切れていないけど、今まで一番感じたのは、都市の発展が極めて当時の社会技術や生活スタイルとかが関わっていることである。

都市の起源は市場というものがあつたからである。「都」というのは武器を持ち、土地を守るという意味である。「市」というのは、交易を行う場所である。しかし、都市の機能は社会発展とともに拡大した。ただ商売を行い、敵を防御する場所ではなく、政治や経済や文化などの中心になった。

第一次産業革命により、人類社会は定住の場所があつた。第二次産業革命の発達により、都市も大きな変化が起こつた。都市の工場化は数多く農業人口を吸収し、都市人口になった。また、電車や船の発明により、人々の交通手段も広がつた。19世紀から車は主要な交通手段になった。一方で、都市の拡大で緑地の減少、都市に住んでいる人は自然環境との距離が離れ、交通渋滞や大気汚染やゴミ悪臭など都市問題が出てきた。都市問題について具体的に言えば、人と自然、人と社会、人と人との関係が崩れることである。主に、人口、生態、交通、住居、犯罪、高齢化など問題に関わっている。

第三次産業革命の中で、だんだん成熟してきたコンピュータ技術は、現在人工的なコンピュ

一タの上で、人間と同様にあるいは人間以上の知能を実現させることを努力している。人間の能力は有限であり、自分の能力以上のことにチャレンジする とき、必要な道具が不可欠である。

昔の生活を思い出し、実は人工知能がわれわれの都市問題を解決することに尽力してくれると思われる。私は中国で車を運転するとき、「高德地図」というナビゲーションアプリを使っていた。このアプリは、ナビゲーションしている道路が交通渋滞や事故が発生した後、すぐに事故メッセージを送ってくれ、ほかの道路を選択し、目的地までナビゲーションしてくれた。また、2016年日本では都市の警備配置問題を高速に解く AI 数値技術を開発した。この AI 技術の開発により都市の治安を支える盾になると思われる。つまり、人工知能は都市交通と都市犯罪という都市問題に貢献していると考えられる。

人工知能が発展している現代では、もし人工知能を使って都市再生や都市リ・デザインことができれば、あるいは、都市を管理するなら、都市はもっとスムーズ化になり、都市の経済にも影響されると思われる。しかし、人工知能は都市問題を解決する分野で未熟なので、一体この都市問題を全て解決できるかどうか疑問である。人工知能は都市再生の分野でまだ真っ白なので、もしくは、人工知能を使わず都市再生問題にも解決できるかもしれない。だから、大学で研究したいことは、主に都市再生や都市リ・デザインについて方法を研究する。同時に、どうやって人工知能を加える必要があるかどうかを探索する。

対話相手

今回の対話相手は同じ学科の A さんである。A さん研究しているテーマは「まちづくりによる過疎地域活性化」である。A さんを選んだ理由は同じ学科であり、都市や都市問題について関心を持っているからである。それに、人工知能で都市問題を解決する方法に関することもアドバイスしてくれると考えられる。

対話結果

同じ都市政策学科の A さんと一時間ほど対話した。最初 A さんにレポートを読んでもらった。まず、A さんは「文さんはこの都市問題の中で一番解決したいのがどれですか?」と聞いた。確かに、都市問題は単にひとつの問題ではなく、数多く小問題で組み合わせた大問題である。この問題と聞かれると、少し行き詰まり状態になった。自分でもこの問題の中でどれを研究したいのかまだはっきり決めていなかった。

次に、A さんは「文章の中で産業革命のことを書く理由はなんですか?」と質問した。都市の発展や拡大してくる理由は産業革命のおかげでだという考え方を A さんに伝えた。具体的に言えば、産業革命の推進とともに、都市部はたくさん就労機会を提供られ、農村人口が都市に移行してきた。しかし、急激な人口上昇により、都市の拡大をしなければならない。その中で、

様々な都市問題を生み出した。つまり、産業革命は都市の発展を推進する。一方で、都市問題も生じると思われる。

また、Aさんは文章の中で、「都市問題はさまざまな環境があり、それに対する人工知能での解決方法も異なる。」という部分を指摘した。この都市問題に関連する環境というのは何ですかと聞かれた。私考えているのは、環境という物が分野という物である。都市問題の幅が広いだから、独立した分野に別々の解決方法をしないとイケない。例えば、交通渋滞に対する、道路やナビゲーションアプリなどを切り口として、対策を作ることである。

そして、Aさんは「なぜ自分がこういう事をやりたいですか？」と聞いた。それに、ただナビゲーションアプリの事と本を読んだ後考えたことをきっかけとしてのは、不十分だと指摘した。確かにこれは全て自分と関わる事だけど、もっと説得力をアップするため、自分と深くきっかけを書かなければならない。

結論

最初から、日本語の授業で「大学で研究したいこと」という課題を出した後、去年の日本語の課題「大学でやりたいこと」と同じ課題ではないかと思われた。そのため、去年と同じレポートを書くなら、つまらないと思うので、違うテーマを書こうと考えた。

1回目のレポートで、都市発展と経済の関連性について書いた。しかし、クラスメートとの議論で都市発展の方面より経済についてもっと研究したいことになったと指摘された。確かに、1回目のレポートで自分と経済のきっかけ全くなかった。研究テーマとしては、こじつけと思われる。

2回目のレポートを書く前に、「都市計画原理」という本を読んだ。もし現代高度技術（人工知能）を使って、都市問題のデータを分析し、都市の発展にもコントロールしたら、都市問題を無くすだろうと考えられた。そのときのきっかけはただナビゲーションアプリを使ったことであった。それから、Aさんと対話した後、自分が書いた文章の中でいくつ質問された。その中で、一番唾然したのは、やはり都市問題の中でどれが最も解決したいという質問である。また、3回目の授業にもこの質問に聞かれた。去年と同じ文章を書いたらつまらないと思っているから、ゴーストタウンについて住居問題を避けるかどうかを迷った。

最後、真剣に考えた後、自分と強くつながりがあるゴーストタウンの住居問題を解決することに決定した。やはり自分は研究したい課題なら、必ず自分と深くつながりがあれば、最後までやり続けていくと思われるだろう。何度も先生やクラスメートが質問されたことのおかげで、自分が研究したいことをもう一度頭に中に深刻になった。それで、都市再生や都市リ・デザインに関する方法を研究したいと考えられる。そして、未来人工知能でどのように都市問題にチャレンジするのかを探索したい。

感想

授業の全体としては、書いたレポートについて意見交換ができる。文章を書く能力と日本語での表現力をアップした。また、自分はこれから目指している目標を明確した。しかし、ある時には、具体的研究したい目標よりそれをやりたい理由に重視しすぎたと感じた。確かに、きっかけが不可欠だけど、必ず自分とかなり深くつながりが必要でしょうか。一冊の本を読んで考えたことや別人があった不運に見た感想したことなど自分自身が体験しなかったことは、本当に自分のきっかけにならないでしょうか。

参考文献：

同济大学 吴志强 李德华 . (2010). 城市规划原理.

動機文

昔の自分は「私は歴史建築が好きだから、建築学科に入りたい」と堂々とレポートに書き出したが、書きは苦手なので、建築学科に入ることを断念した。今から考えると、やはり自分は建築より歴史の方に深い興味を持って、図面で建築を設計することも自分の得意な分野ではない故だ。しかも、昔の建築を復活しても、歴史に存在した精神は到底、戻らない。精神や文化は人の心によって決めるものであり、平成時代の若者に「大正昭和の先輩のように一生懸命頑張ろうぜ」と言っても、困らせるだけじゃないか。それから、私は本当にやるべきことを探し始めた。

総政学科の中に経済は一般の文系科目と違って、物事を言う前にきちんと数字と計算を明白に出せる。理論を証明するためにモデルを立て、要素を単純化にし、グラフと図表で一目瞭然な結果を表すことができる。理系好きな自分にはこのような半分的な数学分野と相性がいいと思っている。昔毎日計算していたから多くの数字グラフの中で泳ぐことでも楽しみを感じられ、論理的な考え方が好きだから、心が惹かれた。

今の私は経済分野をテーマとして研究したい。確かに、経済学を学ぶ者たちの一般イメージはパソコンの前に計算を毎日繰り返し、効率と理性に偏りすぎて感情を無視し勝ち、変わった人々だ。しかし、総政の聖句を思い出せば、多分私が経済を選ぶ意味を理解できるだろう。「仕えられるためではなく、仕えるために」道具として他人を扱い、偉くなるより、他人を支えることこそ、あるべき姿である。経済学専門の亀田先生は必ず最初の授業で経済の語源：「経世済民」の意味を皆に伝える。「世を操り、人々を助ける」社会の財とサービスをより効率的運営し、更に生産力を伸ばすことが経済の最終的な目的である。先生の話聞いてから、自分の中の何かが変わったと感じた。経済を自分の力として得られれば、更に他人の力になることを自分の出発点にして、色々考えた。

その後、総政学科に入ろうことを思い浮かべた。総政学部の一年生履修科目は経済（総政B）、政治（総政A）、哲学（キリスト講義）と数学3つの文系基礎と1つの理系基礎を身に付けられる仕組みを立っている。つぎに二年生の時専門の分野に入り、総合的視野で問題を解決することが望まれる。現代の社会問題は一つの分野だけで対応しきれない。多様な角度から物事を分析して、社会に有益な結論を出す総政学科は自分の考えと合っているので、総政に入るのを腹に決めた。

経済を研究したいと言うものの、具体的にどの方向にやりたいかを述べないと、私のインセンティブを掴みにくいので、ここでテーマを簡单的に述べる。

中国の発展を全体的見ると、計画経済から市場経済への転換は大きなポイントとなっている。その期間で、中国に失業率の上昇、格差の拡大など様々な社会問題が起こってしまった。最終的に1989年で大規模な学生デモに至って、「天安門事件」として多くの人々に知らされている。

研究のテーマで、私は「計画経済から市場経済への転換」を原点にする。冷戦時代以来、東ヨーロッパや東南アジア諸国がこのような転換が見えられる。更に現代のアフリカや南アメリカの国々はこのような転換が進んでいる。勿論この転換は諸国の経済に対して、いい影響を与えているが、中国と同じ、転換の過程で様々な問題が起きた。もし、問題の要因を解明できれば、できるだけそれを回避し、よりスムーズな発展が出来るようになると予想した。研究のアプローチとして、改革開放から天安門事件まで十年間の市場政策、金融政策と変化を調査し、それぞれの影響を評価する研究を行いたい。

対話相手

私は話し合い対象を中学校の同窓にしたいと思う。彼はドイツに数年間留学して、主に経済を学んでいる。成績トップで人柄もよくて、昔から手本として憧れた人であった。中国の大学入試前の日々は毎日宿題の山で戦い続けて、辛くてストレスが高い、耐えにくい時期だ。あの時、自分は「どうせ、留学しに行くから、試験の成績どうでもいい、もう諦らめた。」と飲み会で気持ちを吐き出した。「人生は短い」彼は酒杯を少し挙げて語った「一回でも、自分の英雄になってはどうだ？」多分、あの時、その話がなければ、そのまま人生のチャレンジから逃して、高校時代の最後で後悔を残してしまうだろう。「自分の英雄になれ」という言葉を今思い出しても、心が響く言葉だった。

彼と研究テーマを語り合えて、考え方をより進歩できると思う。

対話結果

対話の始まりとして、この課題の趣旨を彼に伝えて、協力をもらった。そして、彼の基本的な考え方を確認するために、経済に対する意見や勉強の目的を交換してみた。

私「えっと、はじめとしてこちらから聞こう、多くの科目の中、あなたはなぜ経済を選んだ？」

彼「そうね、要すれば未来に役立つと思っているからだ。経済の根本は理性的な選択で資源を配分することで、仕事の中でこの能力が大きく評価される。せっかくの留学だから、大学の中で少しでも自分を伸ばしたい。」

私「あ、私もそう思う。でも、この一年間経済を勉強してみて、ほぼ全て理論的で、実際の仕事の中で役たちそうもないし、先生も経済はトップに目指さないと、儲ける学科ではないって言ったが、それについてどう思う？」

彼「どう思うって (笑)。頑張れば、別にトップにならないことも限らないじゃない？ビジネスの成功はほぼ全ては経済で分析できる。それに通して多くの提案の中で、一番有益な提案を選ぶことができるよ、どれくらい儲けるのは分からないが。っていうか、儲けないこと分かっているのに、何で勉強しているの？」

私「まあ、何時か役立つだろうと思ってき、時々自分のことより、他の誰かのためにやってみたい。偉くなるなんて滅多に考えていないが、経済学んだら、論文や提案が他人と社会にメリットを送れると思うわ。」

彼「相変わらず理想すぎる奴だな。でもそれはそれでいいと思うよ、人それぞれだし、何のことも損得勘定やったら、逆につまらなくなるじゃない？あなたと違って、私は上の方に立ちたい。あんなに頑張ったから、怠け者に負けてたまるか、みたいな感じ。」

ステップ1の目標が達成したので、具体的な課題の方に転じた。

私「それはすごいね。昔からその自信に感服していた、私もそうこなくじゃ。で、実際、今は何を研究しているの？」

彼「あ、私なら、えっと、分かりやすく説明しにくいな。非ケインズ効果はね、ケインズの積極的な財政政策を取っても、景気回復できない現象であり、そして逆に増税と政府支出を減らすことが景気にいい影響が出る。私はこの現象発生の原因を学んでいる。今の段階は知識を増やすことが中心で、まだ研究とは言えないが。」

私「あ、私真っ逆だ。ケインズ効果の検証をやりたいで、増税しても景気が上がるなんてすごいね。どうやってできるのか」

彼「今のあなたに説明すると手間がかかりすぎだ。もっと勉強したら分かるよ。」

そして、自分の研究テーマを簡単に彼に説明してあげた。

私「どう思う？」

彼「ん…中国の金融政策か、悪くないけど、もう少し概念的に…あ、やはり分からないか。理論を数学化できるように、原因と結果をはっきり分けて、統計から得られるデータで数式と関数で分析できることこそ研究と言えるよ。中国だけではなく、もっと汎用性を持つことが大事だ。こうすれば、具体的な金融政策を取り上げ、それぞれの効果を分析する必要がある」

私「つまりもっと具体的なこと？分かった。動機文なので、専門知識を文章の中に書き加えないが、後、関連する書物を読んで見る。協力ありがとう、後続きもありえるから、次回、よろしく頼む。」

結論

対話の後、私は原点に帰って、自分の研究テーマと考え方を改めて考察してみた。確かに、一国すべての金融/市場政策を評価するのは無理であり、たとえできても、それは表面現象の分析に過ぎない。より深い学問を学びたいなら、それぞれの数学モデルを頭に入れておく必要がある。そして、市場政策を取り上げた後市場の数学的変化の解析から積み上げて、最後に自分なりの仮説を立て解明することこそ正しい学問のやり方だと感じた。

自分は一学期の経済中心の勉強を経て、基礎の知識を身に着けた。財政、ミクロ、マクロなど様々な分野の中で一番興味深いのは金融政策である。準備金率、国債利率、所得税、消費税などの金融的要素は政府の道具として景気、貨幣、国民貯蓄、消費に深く関連していて、国民の生活と財産に大きな影響を与えている。他人の力になりたいなら、この研究テーマより相応しいことはないはずだと個人的に考えている。

でも、金融政策について自分の勉強と理解はまだ浅いので、今からすぐに研究テーマを特定することはかなり難しい。知識条件が足りない状況に、むりやりテーマを決めても、研究の内容と意味がなくなる恐れがある。私の一存だけど、ケインズ効果の検証はもう多くの経済学者に実行されて、ほぼ完成の状態になってしまう。研究はできるだけ、挟間を狙って行う方が価値あると環境政策論の先生からのアドバイスなので、やはり、ケインズ政策の効果検証を勉強の内容にして、研究を非伝統的金融政策（非ケインズ効果）というテーマに設定したい。自分の友と同じテーマでやると、論文の探しとか、研究についてのデータとか色んな面で便利だと、一つの理由で考えられるが、誰か自分と一緒に研究について楽しく論議できるのは一番重要だ。

一学期の授業と友達間の議論を経て、研究テーマ以外でも、私の考え方も少し変わってきた。前はいつも「他人のために」と偉そうに言うが、その前に、自分は強くなければならぬ。言葉だけでは誰でも話せる。確実な行動を取りたいなら、今より多くの知識を身に着けることは勿論、自分の研究と勉強をどのように皆に分かりやすく説明すればいいか、つまり自分をアピールする能力を挙げなければならない。（前に自分の研究テーマを皆に見せる時、発表は経済学授業みたいな事になってしまっていて、結局やりたいことを伝わらなかつた）何せよ、物事を推進するためには自分の思い以外に他人からの理解も不可欠だと強く感じた。

授業への感想

今学期の授業でクラスの方々から多くのアドバイスを受けて、自分の文章をより分かりやすく改善できた。元々の文章は色んな専門用語があつて、経済の授業受けないと全く理

解できない状態になってしまった。皆の文章からアイデアを受けて、専門の内容より、考え方や気持ちの方が皆に理解されやすいと分かった。経済はどうしても難しいかもしれないが、研究テーマの不足点はいつも自分で発覚して修正しなければならない。(でも、総政Bは必修科目なのに、じつとも経済を勉強したことないようになってしまうのは、今でもわけ分からない。)

全体としては本当に楽しくて、研究テーマを細かく論議できる授業であった。先生のアドバイスと皆の協力に感謝している。

関西学院大学総合政策学部 2017 年度春学期

日本語 III レポート集 私の研究テーマ

発行日	2017 年 8 月 1 日
発行	関西学院大学総合政策学部 牲川波都季 669-1337 兵庫県三田市学園 2-1
編著者	関西学院大学総合政策学部 日本語 III 受講生
問合わせ先	牲川 波都季 segawa@kwansei.ac.jp
